

(別表第1)

サービス評価結果表

サービス評価項目

(評価項目の構成)

I.その人らしい暮らしを支える

(1)ケアマネジメント

(2)日々の支援

(3)生活環境づくり

(4)健康を維持するための支援

II.家族との支え合い

III.地域との支え合い

IV.より良い支援を行うための運営体制

ホップ 職員みんなで自己評価!
ステップ 外部評価でブラッシュアップ!!
ジャンプ 評価の公表で取組み内容をPR!!!

ーサービス向上への3ステップー

【外部評価実施評価機関】※評価機関記入

評価機関名	社会福祉法人 愛媛県社会福祉協議会
所在地	愛媛県松山市持田町三丁目8番15号
訪問調査日	令和1年12月4日

【アンケート協力数】※評価機関記入

家族アンケート	(回答数) 15名	(依頼数) 18名
地域アンケート回答数	10名	

※事業所記入

事業所番号	3870102732
事業所名 (ユニット名)	グループホーム 青い鳥 1F
記入者(管理者) 氏名	丹下 実子
自己評価作成日	令和 元 年 11 月 13 日

<p>【自分らしく】 地域に密着したサービスを行い、馴染みのスタッフにより利用者様へ安心・安全に生活して頂けるホームを目指す。 また、併設のクリニックと連携を取りながら、健康管理に努める。</p>	<p>【前回の目標達成計画で取り組んだこと・その結果】 ○本人様の暮らし方への思いを整理し、共有化する為の記録ができていない。入居時の情報も含め、記録に残し情報を共有する。⇒一人ひとりの情報収集を行い、得た情報をまとめ 常時、職員が把握・共有できる様作成しました。それを踏まえうえで、コミュニケーション・日常生活支援にかかわっております。引き続き今後の情報も必要あれば記入して共有していきたいと思っております。経過記録の記入も同様です。 ○介護計画に沿ったケアの実践が不十分である。サービス実施表の充実。⇒毎日、サービス実施表を記録する。介護計画項目ごとに評価を記入する。などを実施していますが、単調になりつつあります。 ○地域との交流が少ない。リニューアルと共に前進していく。⇒地域の公園清掃に参加(月1回)・中学生の訪問(花壇の手入れ・防火訓練)などの交流がありました。</p>	<p>【今回、外部評価で確認した事業所の特徴】 3年前に全面改装を行って再開した事業所は、隅々まで環境整備が行き届き、清潔で美しい。高い人権意識を持つ管理者の強力なリーダーシップのもと、話し合いを重ねながらサービスの質の向上に取り組んでいる。職員は利用者一人ひとりが持っている能力を把握し、力が発揮できるよう支援しており、食事中も職員の利用者に対する穏やかな声かけと気配りが感じられた。また、地域との関わりを大切に考え、積極的に地域行事に協力している。日常の実践を謙虚に振り返りつつ、課題を発見して改善に結びつけようとする意欲的に取り組んでいる事業所である。</p>
--	---	---

評価結果表

項目 No.	評価項目	小項目	内容	自己評価	判断した理由・根拠	家族評価	地域評価	外部評価	実施状況の確認及び次のステップに向けて期待したいこと
I.その人らしい暮らしを支える									
(1)ケアマネジメント									
1	思いや暮らし方の希望、意向の把握	a	利用者一人ひとりの思いや暮らし方の希望、意向の把握に努めている。	○	入居前か入居時に必ず、本人様・家族様にお尋ねします。そして、職員間で共有に努めております。	◎	/	○	利用者との会話の中で聞いた言葉を大切に受け止め、思いや意向の把握に努めている。意思表示が困難な利用者は、普段と異なる表情やしぐさで推測したり、家族に確認したりして把握に努めている。
		b	把握が困難な場合や不確かな場合は、「本人はどうか」という視点で検討している。	○	本人様の視点での検討を心がけております。家族様のアドバイスを参考にしております。	/	/	/	
		c	職員だけでなく、本人をよく知る人(家族・親戚・友人等)とともに、「本人の思い」について話し合っている。	○	ご面会に来られた時にお尋ねすることが多く、特別に時間は取っていません。特別に必要な時は話し合いの場をもちます。	/	/	/	
		d	本人の暮らし方への思いを整理し、共有化するための記録をしている。	○	入居前の暮らしをお尋ねして整理・記録して職員間で共有しております。	/	/	/	
		e	職員の思い込みや決めつけにより、本人の思いを見落とさないように留意している。	○	些細な言動も記録・申し送りに心がけております。	/	/	/	
2	これまでの暮らしや現状の把握	a	利用者一人ひとりの生活歴や馴染みの暮らし方、こだわりや大切にしてきたこと、生活環境、これまでのサービス利用の経過等、本人や本人をよく知る人(家族・親戚・友人等)から聞いている。	○	可能な限りの情報収集には務めております。本人様をよく知る方が少なく、本人様も困難な現状も多々見られます。	/	/	○	入居時に利用者と家族から情報を収集すると共に、関係機関からも情報を得てフェイスシートに記録している。利用者の理解を深めるため、入居後に知り得た情報を人生のあゆみ(所定用紙)にまとめて記録して共有している。
		b	利用者一人ひとりの心身の状態や有する力(わかること・できること・できそうなこと等)等の現状の把握に努めている。	○	経過記録を会話文などを取り入れて些細な状態の把握に努めております。	/	/	/	
		c	本人がどのような場所や場面で安心したり、不安になったり、不安定になったりするかを把握している。	○	不穏時の状態・様子も経過記録に詳細を記録し、職員間で共有しております。	/	/	/	
		d	不安や不安定になっている要因が何かについて、把握に努めている。(身体面・精神面・生活環境・職員のかかり等)	○	家族様・主治医のアドバイスをいただいたり、カンファレンスで話し合ったりしております。	/	/	/	
		e	利用者一人ひとりの一日の過ごし方や24時間の生活の流れ・リズム等、日々の変化や違いについて把握している。	○	申し送り・経過記録・カンファレンスで把握に努めております。	/	/	/	
3	チームで行うアセスメント(※チームとは、職員のみならず本人・家族・本人をよく知る関係者等を含む)	a	把握した情報をもとに、本人が何を求め必要としているのかを本人の視点で検討している。	○	本人様・本人様が困難な時はキーパーソンの方と相談、検討しております。	/	/	○	利用者一人ひとりが自分らしく暮らせるよう、利用者ができることやしたいことを大切に考えて生活課題を検討している。
		b	本人がより良く暮らすために必要な支援とは何かを検討している。	○	申し送り・担当者会議で話し合っております。	/	/	/	
		c	検討した内容に基づき、本人がより良く暮らすための課題を明らかにしている。	△	一人ひとりの具体的な内容には不十分です。	/	/	/	

項目No.	評価項目	小項目	内容	自己評価	判断した理由・根拠	家族評価	地域評価	外部評価	実施状況の確認及び次のステップに向けて期待したいこと
4	チームでつくる本人がより良く暮らすための介護計画	a	本人の思いや意向、暮らし方が反映された内容になっている。	○	本人様の思いがなかなか明確でないです。本人様の思いや意向を取り入れております。				利用者や家族の意向を聞き取り、計画作成担当者が、医療情報等を含めて理解しやすいように介護計画に反映させている。
		b	本人がより良く暮らすための課題や日々のケアのあり方について、本人、家族等、その他関係者等と話し合い、それぞれの意見やアイデアを反映して作成している。	○	3か月に1回の担当者会議に、家族様の参加が難しいので、面会時などに思い・ご意向をおたずねしております。	○		○	
		c	重度の利用者に対しても、その人が慣れ親しんだ暮らし方や日々の過ごし方ができる内容となっている。	○	家族様から出来る限りの情報をいただき協力もいただいております。				
		d	本人の支え手として家族等や地域の人たちとの協力体制等が盛り込まれた内容になっている。	△	中学生のボランティア活動と一緒に花壇の手入れが出来ました。				
5	介護計画に基づいた日々の支援	a	利用者一人ひとりの介護計画の内容を把握・理解し、職員間で共有している。	○	サービス実施表の記録・担当者会議で共有しております。				サービス担当者会議の議事録やサービス実施表に介護計画の援助方針を記載して共有しており、日々確認しながらサービス実施状況を記録してモニタリングに反映させている。また、利用者の言葉を大切に記録に残し、利用者の心情の理解に努めている。職員の気づきや提案はその都度話し合い、申し送りノートに記載し共有している。
		b	介護計画にそってケアが実践できたか、その結果どうだったかを記録して職員間で状況確認を行うとともに、日々の支援につなげている。	○	日々、サービス実施表での評価・記録、経過記録、申し送りでの日々の支援につなげております。				
		c	利用者一人ひとりの日々の暮らしの様子(言葉・表情・しぐさ・行動・身体状況・エピソード等)や支援した具体的内容を個別に記録している。	○	サービス実施表・経過記録に記録しております。				
		d	利用者一人ひとりについて、職員の気づきや工夫、アイデア等を個別に記録している。	○	サービス実施表・経過記録に記録しております。				
6	現状に即した介護計画の見直し	a	介護計画の期間に応じて見直しを行っている。	○	通常3か月に1回、入居時は1か月に1回、状態変化が見られたときはその都度しております。				月に1回モニタリングシートに沿って目標の達成状況を確認しており、状態の変化がない場合も3か月に1回介護計画の見直しをしている。状態の変化があった場合はその都度医師を交えて協議し、現状に即した内容になるよう見直し、新たな介護計画を作成している。
		b	新たな要望や変化がみられない場合も、月1回程度は現状確認を行っている。	○	モニタリングシートを活用して現状確認しております。				
		c	本人の心身状態や暮らしの状態に変化が生じた場合は、随時本人、家族等、その他関係者等と見直しを行い、現状に即した新たな計画を作成している。	○	本人様・家族様・主治医と話し合い、見直した計画を作成しております。				
7	チームケアのための会議	a	チームとしてケアを行う上での課題を解決するため、定期的、あるいは緊急案件がある場合にはその都度会議を開催している。	○	不定期ではあるが、必要時、その都度している。例えば、ヒヤリハット事例があり今後の対応についての話し合いの場をもっております。				毎月職員会議を開催してケア内容の検討を行うほか、緊急時はその都度出勤者で協議している。参加できない職員には、会議録を回覧・確認するほか、口頭や申し送りノート等でも確認する等、情報を正確に伝えるようにしている。
		b	会議は、お互いの情報や気づき、考え方や気持ちを率直に話し合い、活発な意見交換ができるよう雰囲気や場づくりを工夫している。	○	職員一人ひとり自分の思いを伝え活発な意見交換・話し合いができております。				
		c	会議は、全ての職員を参加対象とし、可能な限り多くの職員が参加できるよう開催日時や場所等、工夫している。	○	すべての職員が参加対象ですが、全員参加は難しいです。時間・場所は工夫しております。				
		d	参加できない職員がいた場合には、話し合われた内容を正確に伝えるしくみをつくっている。	○	何度かに分け全員参加を心がけている。参加できなかった職員は会議録を利用しております。				
8	確実な申し送り、情報伝達	a	職員間で情報伝達すべき内容と方法について具体的に検討し、共有できるしくみをつくっている。	○	申し送りノート・業務日誌・排泄記録表(出納チェック)・検温表と口頭での申し送りで共有しております。				職員が共有すべき情報は、日誌や申し送りノートを活用して伝達し、確認後に捺印する等、確実に共有できるようにしている。
		b	日々の申し送りや情報伝達を行い、重要な情報は全ての職員に伝わるようにしている。(利用者の様子・支援に関する情報・家族とのやり取り・業務連絡等)	○	申し送りノート・口頭で伝達しております。ノートは確認後は捺印しております。	◎			

項目No.	評価項目	小項目	内容	自己評価	判断した理由・根拠	家族評価	地域評価	外部評価	実施状況の確認及び次のステップに向けて期待したいこと
(2) 日々の支援									
9	利用者一人ひとりの思い、意向を大切にしたい支援	a	利用者一人ひとりの「その日したいこと」を把握し、それを叶える努力を行っている。	△	意思の伝達が困難な方がほとんどです。声掛けだけでは不十分です。努力はしておりますが実施にはつながっていません。	/	/	/	毎日の衣服やおやつ時の飲み物のほか、様々な娯楽用品を準備して選んでもらう等、日常生活のあらゆる場面で自分で選択できるようにしている。職員は利用者が笑顔で過ごせるよう楽しい話題を提供して雰囲気づくりに努めており、調査日も和やかな笑い声が聞こえていた。
		b	利用者が日々の暮らしの様々な場面で自己決定する機会や場をつくっている。(選んでもらう機会や場をつくる、選ぶのを待っている等)	○	その日の洋服選び・その日のレクリエーションでしたい事選び・おやつ飲み物選び・見たいTV選びなどです。	/	/	/	
		c	利用者が思いや希望を表現するように働きかけたり、わかる力に合わせた支援を行うなど、本人が自分で決めたり、納得しながら暮らせるよう支援している。	○	利用者様一人ひとりの楽しみを見つけ職員と共有する事を目標としております。	/	/	/	
		d	職員側の決まりや都合を優先するのではなく、一人ひとりのペースや習慣を大切にしたい支援を行っている。(起床・就寝、食事・排泄・入浴等の時間やタイミング・長さ等)	○	利用者様のペースで過ごしていただける支援に努めております。一人ひとりのペースを大切にしております。	/	/	/	
		e	利用者の活き活きた言動や表情(喜び・楽しみ・うるおい等)を引き出す言葉がけや雰囲気づくりをしている。	○	フロアーにすぐ手が届く場所に娯楽用品を置いています。掃除道具も気が付く場所に置いていません。活き活きた言葉にまではつながっていません。	/	/	/	
		f	意思疎通が困難で、本人の思いや意向がつかめない場合でも、表情や全身での反応を注意深くキャッチしながら、本人の意向にそった暮らし方ができるよう支援している。	○	表情・全身の反応を観察し、他の職員・家族様のアドバイスも頂き、本人様の意向にそった暮らしができる様支援しております。	/	/	/	
10	一人ひとりの誇りやプライバシーを尊重した関わり	a	職員は、「人権」や「尊厳」とは何かを学び、利用者の誇りやプライバシーを大切にしたい言葉かけや態度等について、常に意識して行動している。	○	職員は各自、勉強会・研修などで習得し実践に心がけております。	◎	◎	◎	新人職員は初期オリエンテーションにおいて、その他の職員は接遇研修の機会を設けて利用者の人権や尊厳について学んでおり、利用者は人生の先輩であることを認識して尊敬の念を持って接するよう努めている。管理者は排泄や入浴介助時は自分に置き換えて考える等、羞恥心に配慮するよう指導しており、徹底した人権意識を醸成するよう努めている。居室の扉は利用者の希望に沿って開閉されており、職員は声をかけてノックをしてから居室に入室していた。
		b	職員は、利用者一人ひとりに対して敬意を払い、人前であからさまな介護や誘導の声かけをしないよう配慮しており、目立たずさりげない言葉がけや対応を行っている。	○	いつ、何時も、利用者様の気持ち・立場になってケアを実践しております。	/	/	/	
		c	職員は、排泄時や入浴時には、不安や羞恥心、プライバシー等に配慮しながら介助を行っている。	○	オムツチェック前・更衣前は必ず、声掛けしております。	/	/	/	
		d	職員は、居室は利用者専用の場所であり、プライバシーの場所であることを理解し、居室への出入りなど十分配慮しながら行っている。	○	入室時はノックと声掛け、退室時も声掛けを行っております。	/	/	/	
		e	職員は、利用者のプライバシーの保護や個人情報漏えい防止等について理解し、遵守している。	○	守秘義務を理解して厳守しております。	/	/	/	
11	ともに過ごし、支え合う関係	a	職員は、利用者を介護される一方の立場におかず、利用者に助けを求めたり教えてもらったり、互いに感謝し合うなどの関係性を築いている。	○	利用者様は皆様、人生の先輩として学ぶべきことが多々見られます。話し合ったり教えていただいたり関係性を築いております。	/	/	/	利用者同士の関係を把握し、利用者の意志を尊重しながら見守っており、トラブルが起きそうな場合は適宜職員が仲介している。利用者同士が不穏な雰囲気を感じて声をかけることや、食事を勧めるように声をかける等助け合う場面もある。食事中も隣の利用者のテーブル等を拭く様子が窺えた。
		b	職員は、利用者同士がともに助け合い、支え合って暮らしていくことの大切さを理解している。	○	グループホームの本来の目的として理解しております。	/	/	/	
		c	職員は、利用者同士の関係を把握し、トラブルになったり孤立したりしないよう、利用者同士が関わり合い、支え合えるような支援に努めている。(仲の良い利用者同士が過ごせる配慮をする、孤立しがちな利用者が交わえる機会を作る、世話役の利用者にうまく力を発揮してもらい場面をつくる等)。	○	トラブル発生時には職員が仲介に入り解決しております。利用者様の性格やそれぞれの有する能力・ここの役割を職員が把握し、利用者様同士よい関係が保てるよう支援しております。	/	/	/	
		d	利用者同士のトラブルに対して、必要な場合にはその解消に努め、当事者や他の利用者には不安や支障を生じさせないようにしている。	○	職員が仲介に入り、出来るだけ早く解決に心がけております。他の利用者様に影響がないよう心がけております。	/	/	/	

項目 No.	評価項目	小項目	内容	自己評価	判断した理由・根拠	家族評価	地域評価	外部評価	実施状況の確認及び次のステップに向けて期待したいこと
12	馴染みの人や場との関係継続の支援	a	これまで支えてくれたり、支えてきた人など、本人を取り巻く人間関係について把握している。	○	事前訪問・サマリー・本人様との会話などから情報収集しております。				
		b	利用者一人ひとりがこれまで培ってきた地域との関係や馴染みの場所などについて把握している。	○	本人様から情報収集しております。				
		c	知人や友人等に会いに行ったり、馴染みの場所に出かけていくなど本人がこれまで大切にしてきた人や場所との関係が途切れないよう支援している。	○	個人差はあります。職員はそういった関係が途切れないように！ということ把握して、家族様の協力のもと支援しております。				
		d	家族、知人、友人等、本人の馴染みの人たちが、いつでも気軽に訪れ、居心地よく過ごせるよう工夫している。	○	面会時間の制限もなく、居室でもフロアーでも過ごせます。				
13	日常的な外出支援	a	利用者が、1日中ホームの中で過ごすことがないよう、一人ひとりのその日の希望にそって、戸外に出かけられるよう取り組んでいる。(職員側の都合を優先したり、外出する利用者、時間帯、行き先などが固定化していない)(※重度の場合は、戸外に出て過ごすことも含む)	△	一人ひとりの希望に沿った日常的な外出は出来ておりません。希望があればホーム周辺を散歩(お地藏様・公園など)は出来る様にしてあります。	×	△	△	天候の良い時は週1回程度近くの公園まで散歩に出たり、隣接する商業施設まで買い物に出かけたりしている。家族と共に花見に出かけることもある。重度の利用者を含めて、掃き出し窓から広々としたテラスに出ることができるため、外気浴や、屋外でおやつを食べる等しているが、外出の機会が少なく近所の人々と出会う機会があまりないため、今後は地域に理解と協力を得て、利用者が地域住民と関わりながら外出する機会を増えることを期待したい。
		b	地域の人やボランティア、認知症サポーター等の協力も得ながら、外出支援をすすめている。	×	地域の方との外出支援はありませんでした。家族様の協力は頂いております。				
		c	重度の利用者も戸外で気持ち良く過ごせるよう取り組んでいる。	○	1Fにウッドデッキがあり日光浴は可能です。			△	
		d	本人の希望を把握し、家族や地域の人々と協力しながら、普段は行けないような場所でも出かけられるように支援している。	○	利用者様の(その方の)希望の場所の把握が難しいです。それがわかれば出かけられるよう支援しております。				
14	心身機能の維持、向上を図る取り組み	a	職員は認知症や行動・心理症状について正しく理解しており、一人ひとりの利用者の状態の変化や症状を引き起こす要因をひもとき、取り除くケアを行っている。	○	日々のかかわりの中で状態を把握し、家族様・主治医・職員の情報も得て原因を調べてケアに努めております。				期間ごとにアセスメントを行って利用者一人ひとりの能力を把握しており、職員は極力介助等を行わず、待つ介護に努めている。食事の下膳や食器洗い、テーブル拭き等利用者ができることに着目して能力を発揮できるようにしている。
		b	認知症の人の身体面の機能低下の特徴(筋力低下・平衡感覚の悪化・排泄機能の低下・体温調整機能の低下・嚥下機能の低下等)を理解し、日常生活を営む中で自然に維持・向上が図れるよう取り組んでいる。	○	例えば、できる限りトイレでの排泄を心がけております。夜間もトイレ誘導を心がけております。				
		c	利用者の「できること、できそうなこと」については、手や口を極力出さずに見守ったり一緒に行うようにしている。(場面づくり、環境づくり等)	○	お手伝いとして、下膳・食器洗い・食器拭き・テーブル拭きなどを一緒に行ったり、自分の排泄時間を記録していただいたりしております。自立支援のケアを心がけております。	◎		○	
15	役割、楽しみごと、気晴らしの支援	a	利用者一人ひとりの生活歴、習慣、希望、有する力等を踏まえて、何が本人の楽しみごとや役割、出番になるのかを把握している。	○	利用者様から楽しみを教えて下さることは少ないのですが、職員が普段の様子から把握し生活に組み込んでおります。				利用者の特技や趣味を把握して、役割や出番が持てるよう支援している。息子の世話をするため定期的に帰宅する利用者がある等、張り合いや喜びのある生活を送っており、それが生きがいにつながっている。
		b	認知症や障害のレベルが進んでも、張り合いや喜びのある日々を過ごせるように、日常的に、一人ひとりの楽しみごとや役割、出番をつくる取り組みを行っている。	○	一人ひとりの楽しみを把握して、日常生活がマンネリ化しないよう心がけております。	◎	○	○	
		c	地域の中で役割や出番、楽しみ、張り合いが持てるよう支援している。	○	中学生のボランティア活動と一緒に花壇の手入れ・防火訓練が出来ました。中学生の訪問が楽しみの一つの様です。				

項目No.	評価項目	小項目	内容	自己評価	判断した理由・根拠	家族評価	地域評価	外部評価	実施状況の確認及び次のステップに向けて期待したいこと
16	身だしなみやおしゃれの支援	a	身だしなみを本人の個性、自己表現の一つととらえ、その人らしい身だしなみやおしゃれについて把握している。	○	好きな洋服・好きな色を把握しております。				服装の汚れや乱れに気づいた時は、さりげなく声をかけて居室に戻り着替えてもらう等配慮している。重度の利用者を含め、好みの色やデザイン等を家族に確認し、毎日お気に入りの服装にする等、その人らしさが保てるよう努めている。
		b	利用者一人ひとりの個性、希望、生活歴等に応じて、髪形や服装、持ち物など本人の好みに整えられるように支援している。	○	家族様に協力して頂き、利用者様の好みに整えられるよう支援しております。				
		c	自己決定がしにくい利用者には、職員と一緒に考えたりアドバイスする等本人の気持ちにそって支援している。	○	例えば、入浴準備で着替える洋服を一緒に選んだりして支援しております。				
		d	外出や年中行事等、生活の彩りにあわせてその人らしい服装を楽しめるよう支援している。	○	家族様の協力のもと支援しております。				
		e	整容の乱れ、汚れ等に対し、プライドを大切にしたりさげなくカバーしている。(髭、着衣、履き物、食べこぼし、口の周囲等)	○	声掛けや場所に細心の注意を払い支援しております。	◎	○	○	
		f	理容・美容は本人の望む店に行けるように努めている。	○	ご本人様が行きつけの店を希望される方は、家族様の協力のもと行っていただいております。				
		g	重度な状態であっても、髪形や服装等本人らしさが保てる工夫や支援を行っている。	○	家族様と相談し、協力を得て支援しております。			○	
17	食事を楽しむことのできる支援	a	職員は、食事の一連のプロセスの意味や大切さを理解している。	○	研修会・勉強会などで、各自、習得して理解に努めております。				法人の管理栄養士に相談し、利用者の希望を取り入れながら献立を考えており、3食をユニットで調理している。時には弁当を注文するなど柔軟に対応している。菜園で収穫した野菜を使って調理することや、懐かしいお菓子をおやつに用意することもある。利用者は食後の片付けを分担して手伝うことが日課になっており、訪問当日も職員と一緒に台所に立っていた。茶碗や湯呑、箸は利用者が使いやすい専用のものを使用して食べている。職員と一緒に食卓を囲み、利用者の様子に気を配り優しく声をかけサポートしながら食事をしていた。重度の利用者を含め、食事までの調理の音や匂い等雰囲気を感じており、利用者全員で食卓を囲み、和やかな雰囲気の中で食事をすると風景を窺えた。利用者の栄養面は、職員間で定期的に話し合いバランスの取れた栄養が摂れるように努めている。
		b	買い物や献立づくり、食材選び、調理、後片付け等、利用者とともにやっている。	△	後片付けは毎日のお手伝いとして一緒にしております。			○	
		c	利用者とともに買い物、調理、盛り付け、後片付けをする等を行うことで、利用者の力の発揮、自信、達成感につなげている。	○	後片付けは日課のように捉えられ手際よく行われます。自信・達成感につながっております。				
		d	利用者一人ひとりの好きなものや苦手なもの、アレルギーの有無などについて把握している。	○	家族様・利用者様の情報により把握しております。				
		e	献立づくりの際には、利用者の好みや苦手なもの、アレルギー等を踏まえつつ、季節感を感じさせる旬の食材や、利用者にとって昔ながらの味のものを取り入れている。	○	メニューに旬の食材を入れたり、おやつに懐かしいお菓子をお出ししております。			○	
		f	利用者一人ひとりの咀嚼・嚥下等の身体機能や便秘・下痢等の健康状態にあわせて調理方法としつつ、おいしそうな盛り付けの工夫をしている。(安易にミキサー食や刻み食で対応しない、いろどりや器の工夫等)	○	利用者様の状態把握を踏まえ、主治医・看護師と連携し献立と食事形態を工夫して決めています。				
		g	茶碗や湯飲み、箸等使いやすいものを使用している。	○	個人持ちの馴染みのある食器を使用しております。			○	
		h	職員も利用者と同じ食卓を囲んで食事を一緒に食べながら一人ひとりの様子を見守り、食事のペースや食べ方の混乱、食べこぼしなどに対するサポートをさりげなく行っている。	○	全職員一緒に困難ですが、出来るだけ職員も利用者様と一緒に食卓を囲み食事を摂る様にしてあります。			○	
		i	重度な状態であっても、調理の音やにおい、会話などを通して利用者が食事が待ち遠しくおいしく味わえるよう、雰囲気づくりや調理に配慮している。	△	フローアまでお連れし、雰囲気を感じていただくように心がけております。	◎		○	
		j	利用者一人ひとりの状態や習慣に応じて食べられる量や栄養バランス、カロリー、水分摂取量が1日を通じて確保できるようにしている。	○	1日の水分摂取量のチェックは全員しております。献立表は同施設の献立を参考にしており、同施設の管理栄養士からのアドバイスも頂いております。				
		k	食事が少なかったり、水分摂取量の少ない利用者には、食事の形態や飲み物の工夫、回数やタイミング等工夫し、低栄養や脱水にならないよう取り組んでいる。	○	摂取量の少ない時は主治医に連絡、形態の変更や栄養ドリンクの補食の使用などの指示をいただきケアしております。				
		l	職員で献立のバランス、調理方法などについて定期的に話し合い、偏りがないように配慮している。場合によっては、栄養士のアドバイスを受けている。	○	必要時、同施設の管理栄養士のアドバイスを頂いております。			○	
		m	食中毒などの予防のために調理用具や食材等の衛生管理を日常的に行い、安全で新鮮な食材の使用と管理に努めている。	○	清潔に保つよう努めております。				

項目No.	評価項目	小項目	内容	自己評価	判断した理由・根拠	家族評価	地域評価	外部評価	実施状況の確認及び次のステップに向けて期待したいこと
18	口腔内の清潔保持	a	職員は、口腔ケアが誤嚥性肺炎の防止につながることを知っており、口腔ケアの必要性、重要性を理解している。	○	研修会・勉強会などで、各自、習得して理解に努めております。	/	/	/	利用者一人ひとりの口腔内の状態を3か月ごとに把握して口腔ケア確認表に記録し、予防や異常の早期発見に努めている。毎食後口腔内の汚れ等がないようにケアを実施するほか、義歯は毎晩洗浄液に浸け、清潔保持を継続するようにしている。
		b	利用者一人ひとりの口の中の健康状況(虫歯の有無、義歯の状態、舌の状態等)について把握している。	○	口腔ケア確認表を利用して把握しております。	/	/	◎	
		c	歯科医や歯科衛生士等から、口腔ケアの正しい方法について学び、日常の支援に活かしている。	○	訪問歯科のDrの勉強会があります。全員参加を促しております。必要時、アドバイスも頂いております。	/	/	/	
		d	義歯の手入れを適切に行えるよう支援している。	○	毎食後、口腔ケア実施している。夜間は除去、洗浄液に浸けている。	/	/	/	
		e	利用者の力を引き出しながら、口の中の汚れや臭いが生じないように、口腔の清潔を日常的に支援している。(歯磨き・入れ歯の手入れ・うがい等の支援、出血や炎症のチェック等)	○	口腔ケア確認表を表を利用して。異常があればDrに報告している。	/	/	○	
		f	虫歯、歯ぐきの腫れ、義歯の不具合等の状態をそのままにせず、歯科医を受診するなどの対応を行っている。	○	訪問歯科を利用しております。	/	/	/	
19	排泄の自立支援	a	職員は、排泄の自立が生きる意欲や自信の回復、身体機能を高めることにつながることや、おむつ(紙パンツ・パッドを含む)の使用が利用者の心身に与えるダメージについて理解している。	○	研修会・勉強会などで、各自、習得して理解に努めております。	/	/	/	夜間のみおむつを使用している利用者が少数いるが、日中夜間共にトイレで排泄ができるよう支援している。排泄状態を詳細に記録して職員間で話し合い、時間帯や排泄量に合わせて適切な排泄用品を使用できるように検討している。
		b	職員は、便秘の原因や及ぼす影響について理解している。	○	理解し、Dr指示のもと排便コントロールしております。	/	/	/	
		c	本人の排泄の習慣やパターンを把握している。(間隔、量、排尿・排便の兆候等)	○	排泄チェック表・申し送りして把握しております。	/	/	/	
		d	本人がトイレで用を足すことを基本として、おむつ(紙パンツ・パッドを含む)使用の必要性や適切性について常に見直し、一人ひとりのその時々状態にあった支援を行っている。	○	一人ひとりのその時その時の状態に応じて見直し、適切な使い分けをしております。	/	◎	○	
		e	排泄を困難にしている要因や誘因を探り、少しでも改善できる点はないか検討しながら改善に向けた取り組みを行っている。	○	利用者様一人ひとりの状態を職員間で共有しております。トイレでの自立支援を目標にしております。	/	/	/	
		f	排泄の失敗を防ぐため、個々のパターンや兆候に合わせて早めの声かけや誘導を行っている。	○	時間毎の声掛け・トイレ誘導、各々のパターンに合わせた誘導をしております。	/	/	/	
		g	おむつ(紙パンツ・パッドを含む)を使用する場合は、職員が一方的に選択するのではなく、どういう時間帯にどのようなものを使用するか等について本人や家族と話し合い、本人の好みや自分で使えるものを選択できるよう支援している。	○	職員が提案・アドバイスしておりますが、決定は利用者様・家族様にさせていただいております。	/	/	/	
		h	利用者一人ひとりの状態に合わせて下着やおむつ(紙パンツ・パッドを含む)を適時使い分けしている。	○	状態に応じて使い分けております。	/	/	/	
		i	飲食物の工夫や運動への働きかけなど、個々の状態に応じて便秘予防や自然排便を促す取り組みを行っている。(薬に頼らない取り組み)	○	水分補給・腹部マッサージ・運動などの声掛けをして自然排便を促すようケアしております。	/	/	/	
20	入浴を楽しむことができる支援	a	曜日や時間帯を職員の都合で決めてしまわずに、利用者一人ひとりの希望や習慣にそって入浴できるよう支援している。(時間帯、長さ、回数、温度等)	○	曜日の予定は決めておりますが、その時その時、希望があれば希望に沿うようにしております。	/	◎	○	週2回入浴を基本とし、和式家庭浴槽にゆったりと入浴ができるよう支援している。利用者専用のシャンプーの使用や湯の温度等、利用者の希望にも応じている。また、受診前日の入浴希望にも対応する等、柔軟に対応している。
		b	一人ひとりが、くつろいだ気分に入浴できるよう支援している。	○	スタッフのコミュニケーションでくつろいで頂けるよう支援しております。	/	/	/	
		c	本人の力を活かしながら、安心して入浴できるよう支援している。	○	出来ることはしていただき、見守りしております。自立支援のケアをしております。	/	/	/	
		d	入浴を拒む人に対しては、その原因や理由を理解しており、無理強いせず気持ちよく入浴できるよう工夫している。	○	原因・理由を職員間で話し合い共有しております。出来るだけ希望に沿い、無理強いはしていません。	/	/	/	
		e	入浴前には、その日の健康状態を確認し、入浴の可否を見極めるとともに、入浴後の状態も確認している。	○	入浴前にはバイタルサインの測定を行い、可否決定に困った時は主治医に指示を仰いでおります。	/	/	/	

項目No.	評価項目	小項目	内容	自己評価	判断した理由・根拠	家族評価	地域評価	外部評価	実施状況の確認及び次のステップに向けて期待したいこと
21	安眠や休息の支援	a	利用者一人ひとりの睡眠パターンを把握している。	○	経過記録・申し送りにて把握しております。				夜間眠れるよう日中活動する時間を増やす等過ごし方に工夫している。不眠時は温かいお茶を勧める等して職員が対応しており、安易に薬剤に頼らないようにしている。
		b	夜眠れない利用者についてはその原因を探り、その人本来のリズムを取り戻せるよう1日の生活リズムを整える工夫や取り組みを行っている。	○	まずは、昼間は活動への声掛けをして、昼夜逆転防止に努めております。				
		c	睡眠導入剤や安定剤等の薬剤に安易に頼るのではなく、利用者の数日間の活動や日中の過ごし方、出来事、支援内容などを十分に検討し、医師とも相談しながら総合的な支援を行っている。	○	一人ひとりの状態を職員間で共有し、主治医に報告して指示をいただいております。			◎	
		d	休息や昼寝等、心身を休める場面が個別に取れるよう取り組んでいる。	○	居室ですんでいただいております。				
22	電話や手紙の支援	a	家族や大切な人に本人自らが電話をしたり、手紙のやり取りができるように支援をしている。	○	希望に応じて支援しております。				
		b	本人が手紙が書けない、電話はかけられないと決めつけず、促したり、必要な手助けをする等の支援を行っている。	○	声掛けしております。必要な時は、見守り・手助け致します。				
		c	気兼ねなく電話できるよう配慮している。	△	希望には応じております。				
		d	届いた手紙や葉書をそのままにせず音信がとれるように工夫している。	○	家族様に連絡したり、お返事を促したりしております。				
		e	本人が電話をかけることについて家族等に理解、協力をしてもらうとともに、家族等からも電話や手紙をくれるようお願いしている。	△	利用者様から希望があった時、先ず職員が連絡して要件を伝え、承諾を得た上で電話を替わるようにしております。				
23	お金の所持や使うことの支援	a	職員は本人がお金を所持すること、使うことの意味や大切さを理解している。	△	理解はしておりますが、トラブル防止のため、一部の利用者様のみ所持しております。				
		b	必要物品や好みの買い物に出かけ、お金の所持や使う機会を日常的につくっている。	△	お金を使う機会は日常的にはつくっていません。				
		c	利用者が気兼ねなく安心して買い物ができるよう、日頃から買い物先の理解や協力を得る働きかけを行っている。	△	利用者様個人で行くことはなく、買い物先の理解もできていません。				
		d	「希望がないから」「混乱するから」「失くすから」などと一方的に決めてしまうのではなく、家族と相談しながら一人ひとりの希望や力に応じて、お金を所持したり使えるように支援している。	○	家族様と話し合い、希望に応じて所持して頂いております。現在、本人様の希望が強く1名の方が所持されております。				
		e	お金の所持方法や使い方について、本人や家族と話し合っている。	○	所持されている利用者様の家族様とは話し合っております。				
		f	利用者が金銭の管理ができない場合には、その管理方法や家族への報告の方法などルールを明確にしており、本人・家族等の同意を得ている。(預り金規程、出納帳の確認等)。	△	職員が気付いた時は家族様に報告しております。ルール作りは利用者様の理解が困難のように思われます。				
24	多様なニーズに応える取り組み		本人や家族の状況、その時々々のニーズに対応して、既存のサービスに捉われない、柔軟な支援やサービスの多機能化に取り組んでいる。	△	その都度、一人ひとりのニーズに対してベストなサービスを考え取り組むことが大事だと思っております。		◎	○	病院受診時は必要に応じて介護タクシーを手配している。家族の協力を得ながら定期的な帰宅や外食、法要等の外出支援を行っており、利用者や家族からの要望に柔軟に対応している。

項目No.	評価項目	小項目	内容	自己評価	判断した理由・根拠	家族評価	地域評価	外部評価	実施状況の確認及び次のステップに向けて期待したいこと
(3)生活環境づくり									
25	気軽に入れる玄関まわり等の配慮		利用者や家族、近隣の人等にとって親しみやすく、気軽に出入りができるように、玄関や建物周囲の工夫をしている。	○	清潔・季節感など注意しております。	○	○	○	玄関先にはゆるやかなスロープが設置され、玄関引戸を入るとユニットを見渡すことができる。玄関には花を活けたり季節を感じる飾り付けがあり、和やかで入りやすい雰囲気である。
26	居心地の良い共用空間づくり	a	共用の空間(玄関、廊下、居間、台所、食堂、浴室、トイレ等)は、家庭的な雰囲気を有しており、調度や設備、物品や装飾も家庭的で、住まいとしての心地良さがある。(天井や壁に子供向けの飾りつけをしていたり、必要なものしか置いていない殺風景な共用空間等、家庭的な雰囲気をそぐような設えになっていないか等。)	○	家庭的な雰囲気を味わえるよう心がけております。清潔感・季節感にもはよりよしております。	○	○	○	リビングはいす席とソファ席があり、明るく広々とした空間になっている。壁側にピアノが置かれており、来訪者や利用者が演奏することがある。改装されたばかりの事業所は清掃が行き届いていて美しく、利用者の塗り絵作品やクリスマスの飾りつけがされている。1階掃き出し窓から広いテラスに出ることができ、庭には花壇と菜園があって利用者の憩いの場にもなっている。
		b	利用者にとって不快な音や光、臭いがないように配慮し、掃除も行き届いている。	○	毎日掃除を実施。臭いの強い場所是要チェックしております。				
		c	心地よさや能動的な言動を引き出すために、五感に働きかける様々な刺激(生活感や季節感を感じるもの)を生活空間の中に取り入れ、居心地よく過ごせるよう工夫している。	○	ホームの花壇で咲いたお花をフロアーに活けたり、折り紙・歌詞本・パズルなど趣味的なものが手の届く所に置いてあります。				
		d	気の合う利用者同士で思い思いに過ごせたり、人の気配を感じながらも独りになれる居場所の工夫をしている。	○	マイペースで過ごされております。				
		e	トイレや浴室の内部が共用空間から直接見えないよう工夫している。	○	共有空間からは、見えないようになっております。				
27	居心地良く過ごせる居室の配慮		本人や家族等と相談しながら、使い慣れたものや好みのもので活かして、本人が居心地よく過ごせるような工夫をしている。	○	家族様の協力を得て、利用者様と相談し希望があれば持込されております。	○			居室は広々として、利用者の身体状況に適したベッドが設置されており、馴染みの机や藤いす、テレビ等を思い思いに配置し、写真や花を飾って居心地良くしている。
28	一人ひとりの力が活かせる環境づくり	a	建物内部は利用者一人ひとりの「できること」や「わかること」を活かして、安全かつできるだけ自立した生活が送れるように配慮や工夫をしている。	○	自立支援のケアをさせていただいております。			○	車いすで移動する利用者にとっても、安全に移動ができる生活空間になっており、リビングには様々な娯楽用品や新聞を置き、自由に手に取ることができる。居室を間違えないよう門札を大きく表示し、トイレ表示も大きくして分かりやすくなるよう工夫している。
		b	不安や混乱、失敗を招くような環境や物品について検討し、利用者の認識間違いや判断ミスを最小にする工夫をしている。	○	テーブルには、お名前を貼ってご自分の席が分かるようにしております。				
		c	利用者の活動意欲を触発する馴染みの物品が、いつでも手に取れるように生活空間の中にさりげなく置かれている。(ぼうき、裁縫道具、大工道具、園芸用品、趣味の品、新聞・雑誌、ポット、急須・湯飲み・お茶の道具等)	○	新聞・雑誌・折り紙・歌詞本・パズルゲーム・TVのチャンネルなどは手の届く所に置いてあります。爪切り・はさみなどは安全面を考慮しております。				
29	鍵をかけないケアの取り組み	a	代表者及び全ての職員が、居室や日中にユニット(棟)の出入り口、玄関に鍵をかけることの弊害を理解している。(鍵をかけられ出られない状態で暮らしていることの異常性、利用者にもたらす心理的不安や閉塞感・あきらめ・気力の喪失、家族や地域の人にもたらす印象のデメリット等)	△	理解はしておりますが、徘徊や転倒の危険性を最優先に考慮している為、閉塞感があります。利用者様と家族様には説明し理解を得ております。	×	×	△	職員は玄関に鍵をかけることの弊害を理解しており、ユニット間は常時開放されていて自由に往来することができ、日々交流の機会があるが、過去に一人で外出した利用者を捜索した経験があり、交通量の多い道路沿いに立地している環境要件もあるため、安全を優先して日中夜間共に玄関は施錠していることが多い。今回家族アンケートに施錠について意見が寄せられており、様々な方面から検討して利用者の自由な行動を確保するよう工夫した取組みを期待したい。
		b	鍵をかけない自由な暮らしについて家族の理解を図っている。安全を優先するために施錠を望む家族に対しては、自由の大切さと安全確保について話し合っている。	△	家族様と話し合っているが、自由より安全を望まれる家族様が圧倒的に多いです。				
		c	利用者の自由な暮らしを支え、利用者や家族等に心理的圧迫をもたらさないよう、日中は玄関に鍵をかけなくてもすむよう工夫している(外出の察知、外出傾向の把握、近所の理解・協力の促進等)。	△	日中、状況に応じてなるべく開錠を心がけておりますが、時間に限度があります。				

項目No.	評価項目	小項目	内容	自己評価	判断した理由・根拠	家族評価	地域評価	外部評価	実施状況の確認及び次のステップに向けて期待したいこと
(4)健康を維持するための支援									
30	日々の健康状態や病状の把握	a	職員は、利用者一人ひとりの病歴や現病、留意事項等について把握している。	○	カルテ表紙に既往歴が記入されており、常時 目に入るようになっております。				
		b	職員は、利用者一人ひとりの身体状態の変化や異常のサインを早期に発見できるように注意しており、その変化やサインを記録に残している。	○	バイタルサインチェック・状態観察を細かく実施しております。記録・報告して早期発見につながっております。				
		c	気になることがあれば看護職やかかりつけ医等にいつでも気軽に相談できる関係を築き、重度化の防止や適切な入院につなげる等の努力をしている。	○	異常に気付けば、看護師・主治医に相談できる環境が整っております。				
31	かかりつけ医等の受診支援	a	利用者一人ひとりのこれまでの受療状況を把握し、本人・家族が希望する医療機関や医師に受診できるよう支援している。	○	利用者様・家族様の希望に沿った受診ができております。	◎			
		b	本人及び家族等の希望を大切に、納得が得られたかかりつけ医と事業所の関係を築きながら、適切な医療を受けられるように支援している。	○	利用者様・家族様の希望に沿った受診ができております。				
		c	通院の仕方や受診結果の報告、結果に関する情報の伝達や共有のあり方等について、必要に応じて本人や家族等の合意を得られる話し合いを行っている。	○	他院受診時は必ず、家族様と同行して頂き、情報も施設に持ち帰って提供していただいております。				
32	入退院時の医療機関との連携、協働	a	入院の際、特にストレスや負担を軽減できる内容を含む本人に関する情報提供を行っている。	○	介護サマリにより、細かく情報提供しております。				
		b	安心して治療できるように、また、できるだけ早期に退院できるように、病院関係者との情報交換や相談に努めている。	○	地域連携室などを通じて、入院先の病院関係者との情報交換・相談はできております。				
		c	利用者の入院時、または入院した場合に備えて日頃から病院関係者との関係づくりを行っている。	○	地域連携室などを通じて、病院関係者との情報交換・相談はできております。				
33	看護職との連携、協働	a	介護職は、日常の関わりの中で得た情報や気づきを職場内の看護職や訪問看護師等に伝えて相談している。看護職の配置や訪問看護ステーション等との契約がない場合は、かかりつけ医や協力医療機関等に相談している。	○	日常での気付きは、職場の看護師・主治医に相談してアドバイス・指示をいただいております。				
		b	看護職もしくは訪問看護師、協力医療機関等に、24時間いつでも気軽に相談できる体制がある。	○	24時間、管理者・看護師・医師に連絡できる体制にあります。				
		c	利用者の日頃の健康管理や状態変化に応じた支援が適切にできるよう体制を整えている。また、それにより早期発見・治療につなげている。	○	急変時、主治医に連絡、対応できる体制にあります。				
34	服薬支援	a	職員は、利用者が使用する薬の目的や副作用、用法や用量について理解している。	○	お薬情報を参考に理解しております。				
		b	利用者一人ひとりが医師の指示どおりに服薬できるよう支援し、飲み忘れや誤薬を防ぐ取り組みを行っている。	○	1回ずつ名前と日付けを明確にし、1日ずつセットしております。セットの確認は複数職員で行っております。のみ忘れ・誤薬はありません。				
		c	服薬は本人の心身の安定につながっているのか、また、副作用(周辺症状の誘発、表情や活動の抑制、食欲の低下、便秘や下痢等)がないかの確認を日常的に行っている。	○	副作用についてはお薬情報で各自 習得しております。状態については日常的に観察しております。				
		d	漫然と服薬支援を行うのではなく、本人の状態の経過や変化などを記録し、家族や医師、看護職等に情報提供している。	○	内服変更時は詳細を記録に残しております。往診時、主治医に報告し、薬の調整をして頂いております。				

項目No.	評価項目	小項目	内容	自己評価	判断した理由・根拠	家族評価	地域評価	外部評価	実施状況の確認及び次のステップに向けて期待したいこと
35	重度化や終末期への支援	a	重度化した場合や終末期のあり方について、入居時、または状態変化の段階ごとに本人・家族等と話し合いを行い、その意向を確認しながら方針を共有している。	○	入居時は相談員により話し合い、入居後は管理者が担当している。管理者が主治医・理事者と相談し、方針を職員に伝えております。	/	/	/	入居時に終末期をどこで迎えたいか聞き取りを行っており、母体診療所及び協力病院と24時間医療体制を整備し、利用者や家族の要望に応じて看取りを行う方針である。重度化した場合は改めて家族や主治医と話し合い、方針を決めている。
		b	重度化、終末期のあり方について、本人・家族等だけではなく、職員、かかりつけ医・協力医療機関等関係者で話し合い、方針を共有している。	○	管理者より職員に伝え、方針を共有している。	○	○		
		c	管理者は、終末期の対応について、その時々職員の思いや力量を把握し、現状ではどこまでの支援ができるかの見極めを行っている。	○	支援の機会がない為、職員の力量の把握は出来ていないが、現状では支援可能な範囲は把握・実施できております。	/	/	/	
		d	本人や家族等に事業所の「できること・できないこと」や対応方針について十分な説明を行い、理解を得ている。	○	適時、利用者様・家族様と話し、理解を得る努力をしております。	/	/	/	
		e	重度や終末期の利用者が日々をより良く暮らせるために、家族やかかりつけ医など医療関係者と連携を図りながらチームで支援していく体制を整えている。あるいは、今後の変化に備えて検討や準備を行っている。	○	家族様と話し合い、希望を職員と共有して対応しております。家族様・主治医と医療連携を図っております。	/	/	/	
		f	家族等への心理的支援を行っている。(心情の理解、家族間の事情の考慮、精神面での支え等)	○	面会時など家族様の話に耳を傾け、理解に努めております。	/	/	/	
36	感染症予防と対応	a	職員は、感染症(ノロウイルス、インフルエンザ、白癩、疥癬、肝炎、MRSA等)や具体的な予防策、早期発見、早期対応策等について定期的に学んでいる。	○	研修会・勉強会などで、各自、習得して理解に努めております。	/	/	/	
		b	感染症に対する予防や対応の取り決めがあり、万が一、感染症が発生した場合に速やかに手順にそった対応ができるよう日頃から訓練を行うなどして体制を整えている。	○	研修会・勉強会で習得し理解はしておりますが、日頃から訓練を行うなどの体制は不十分です。	/	/	/	
		c	保健所や行政、医療機関、関連雑誌、インターネット等を通じて感染症に対する予防や対策、地域の感染症発生状況等の最新情報を入手し、取り入れている。	○	感染症発症の情報を多方面より入手し、職員と情報共有しております。	/	/	/	
		d	地域の感染症発生状況の情報収集に努め、感染症の流行に随時対応している。	○	職員への伝達、注意を徹底しております。	/	/	/	
		e	職員は手洗いやうがいなど徹底して行っており、利用者や来訪者等についても清潔が保持できるよう支援している。	○	職員の手洗いは充分実施されているが、うがいは充分ではない。来訪者は消毒により、清潔を保持できております。	/	/	/	

項目 No.	評価項目	小項目	内容	自己評価	判断した理由・根拠	家族評価	地域評価	外部評価	実施状況の確認及び次のステップに向けて期待したいこと
II. 家族との支え合い									
37	本人とともに支え合う 家族との関係づくりと支援	a	職員は、家族を支援される一方の立場におかず、喜怒哀楽をともにし、一緒に本人を支えていく関係を築いている。	○	出来る限り家族様に協力を求め、一緒に利用者様を支援するように努めております。	/	/	/	誕生会や花見、盆踊り等の行事を家族に案内し、参加してもらっている。 2か月に1回便りに利用者の暮らしの様子を掲載しており、家族にも手紙等を添えて報告している。制度変更による必要事項の伝達は、本部事務所から書類送付と電話で伝えている。運営上の事柄や職員の異動等は、家族に周知されていないため、便り等で周知する等工夫することを期待したい。家族面会時には積極的に声をかけて意思疎通に努めており、利用者の様子を報告したり、家族からの相談等を受けたりしている。遠方の家族にはその都度電話で利用者の状況を伝え、家族からの要望等も聞いている。
		b	家族が気軽に訪れ、居心地よく過ごせるような雰囲気づくりや対応を行っている。(来やすい雰囲気、関係再構築の支援、湯茶の自由利用、居室への宿泊のしやすさ等)	○	職員が家族様に積極的に声掛けてコミュニケーションを図り、家庭的な居心地のいい雰囲気づくりに努めております。	/	/	/	
		c	家族がホームでの活動に参加できるように、場面や機会を作っている。(食事づくり、散歩、外出、行事等)	○	外出行事・苑との合同行事・誕生会・運営推進会議など連絡して、参加をして頂くようお願いしております。	○	/	○	
		d	来訪する機会が少ない家族や疎遠になってしまっている家族も含め、家族の来訪時や定期的な報告などにより、利用者の暮らしぶりや日常の様子を具体的に伝えている。(「たより」の発行・送付、メール、行事等の録画、写真の送付等)	○	不定期ではありますが「たより」を発行しております。適時、電話にて日常生活を報告しております。連絡内容は経過記録に残し職員間で共有しております。	○	/	○	
		e	事業所側の一方的な情報提供ではなく、家族が知りたいことや不安に感じていること等の具体的な内容を把握して報告を行っている。	○	家族様から質問・訴えがあった時は、内容に必要な部署に確認して、回答をして解決につなげております。すぐ対応する事に努めております。	/	/	/	
		f	これまでの本人と家族との関係の理解に努め、より良い関係を築いていけるように支援している。(認知症への理解、本人への理解、適切な接し方・対応等についての説明や働きかけ、関係の再構築への支援等)	○	面会時には日常の様子を報告しております。居室でもフロアでも過ごして頂いております。他の利用者様も一緒にお話しされたりも見られます。	/	/	/	
		g	事業所の運営上の事柄や出来事について都度報告し、理解や協力を得ようとしている。(行事、設備改修、機器の導入、職員の異動・退職等)	△	行事報告はしておりますが、設備改修・機器の導入・職員の異動については不十分です。	x	/	△	
		h	家族同士の交流が図られるように、様々な機会を提供している。(家族会、行事、旅行等への働きかけ)	○	外出や行事の時は声掛けて、交流の機会を設けております。家族会はありません。	/	/	/	
		i	利用者一人ひとり起こり得るリスクについて家族等に説明し、抑圧感のない暮らしを大切にしたい対応策を話し合っている。	○	入居時には『入居時リスク説明書』があります。説明し署名捺印頂いております。入居後も各々のリスクについて説明し、理解を頂いております。	/	/	/	
		j	家族が、気がかりなことや、意見、希望を職員に気軽に伝えたり相談したりできるように、来訪時の声かけや定期的な連絡等を積極的に行っている。	○	家族様から質問や訴えがあった時は、内容に必要な部署に確認し、回答・解決につなげております。即、対応に心がけております。	/	/	○	
38	契約に関する説明と納得	a	契約の締結、解約、内容の変更等の際は、具体的な説明を行い、理解、納得を得ている。	○	事務所・管理者を通して具体的な説明をし、理解・納得 頂いております。	/	/	/	
		b	退居については、契約に基づくとともにその決定過程を明確にし、利用者や家族等に具体的な説明を行った上で、納得のいく退居先に移れるように支援している。退居事例がない場合は、その体制がある。	○	事務所・管理者を通して具体的な説明をし、理解・納得 頂いております。	/	/	/	
		c	契約時及び料金改定時には、料金の内訳を文書で示し、料金の設定理由を具体的に説明し、同意を得ている。(食費、光熱水費、その他の実費、敷金設定の場合の償却、返済方法等)	○	事務所・管理者を通して具体的な説明をし、理解・納得 頂いております。変更時は、その都度、連絡しております。	/	/	/	

項目No.	評価項目	小項目	内容	自己評価	判断した理由・根拠	家族評価	地域評価	外部評価	実施状況の確認及び次のステップに向けて期待したいこと
Ⅲ. 地域との支え合い									
39	地域とのつきあいやネットワークづくり ※文言の説明 地域：事業所が所在する市町の日常生活圏域、自治会エリア	a	地域の人に対して、事業所の設立段階から機会をつくり、事業所の目的や役割などを説明し、理解を図っている。	○	運営推進会議で説明し、理解を得ております。	/	○	/	町内会に加入しており、地域行事に参加している。町内清掃活動や盆踊り大会の準備、地方祭のテント張りを手伝う等、地域に溶け込むよう努めている。近隣中学生の来訪があり、利用者は楽しそうに交流し、いつも心待ちにしている。
		b	事業所は、孤立することなく、利用者が地域とつながりながら暮らし続けられるよう、地域の人たちに対して日頃から関係を深める働きかけを行っている。(日常的なあいさつ、町内会・自治会への参加、地域の活動や行事への参加等)	○	日常的な挨拶の他、町内の清掃活動・お祭りの準備の参加・運営推進会議に参加していただくよう声掛け等々関係を深める働きかけをしています。	/	○	○	
		c	利用者を見守ったり、支援してくれる地域の人たちが増えている。	△	直接的な関わりはあまり得ておりません。	/	/	/	
		d	地域の人気が気軽に立ち寄り遊びに来たりしている。	△	何か用があるときだけの訪問です。	/	/	/	
		e	隣近所の人と気軽に声をかけ合ったり、気軽に立ち寄ってもらうなど、日常的なおつきあいをしている。	△	日常的な挨拶、ゴミ当番の引き継ぎ程度で、日常的なおつきあいはできておりません。	/	/	/	
		f	近隣の住民やボランティア等が、利用者の生活の拡がりや充実を図ることを支援してくれるよう働きかけを行っている。(日常的な活動の支援、遠出、行事等の支援)	○	中学生のボランティア活動として、花理の手入れ・避難訓練がありました。	/	/	/	
		g	利用者一人ひとりの暮らしを支えている地域資源を把握し、本人が心身の力を発揮しながら安全で豊かな暮らしを楽しむことができるよう支援している。	×	地域資源の活用はできておりません。利用できる地域資源を見つけたら始めます。	/	/	/	
		h	地域の人たちや周辺地域の諸施設からも協力を得ることができるよう、日頃から理解を拡げる働きかけや関係を深める取り組みを行っている(公民館、商店・スーパー・コンビニ、飲食店、理美容店、福祉施設、交番、消防、文化・教育施設等)。	○	年に一度の地区の避難訓練に参加したり、地域的美容室の方に訪問美容室をお願いしております。	/	/	/	
40	運営推進会議を活かした取組み	a	運営推進会議には、毎回利用者や家族、地域の人等の参加がある。	○	ほぼ毎回、参加して下さっております。	×	/	△	現在家族の参加が得られない状況が続いており、利用者や家族が参加できる取組みや工夫を期待したい。目標達成計画では着実な取組みがみられて成果も挙げているが、運営推進会議で報告できていないため、今後は会議で報告して参加者と意見交換等を行って欲しい。町内会長の熱心な参加があり、利用者状況や活動報告、ヒヤリハットと事故報告を行った後意見交換を行い、出された意見等を利用者がより安心して生活ができるよう、さらなるサービス向上に活かしている。
		b	運営推進会議では、利用者やサービスの実績、評価への取り組み状況(自己評価・外部評価の内容、目標達成計画の内容と取り組み状況等)について報告している。	×	外部評価の目標達成計画の内容と取り組みについては、報告できておりません。	/	/	△	
		c	運営推進会議では、事業所からの一方的な報告に終わらず、会議で出された意見や提案等を日々の取り組みやサービス向上に活かし、その状況や結果等について報告している。	○	会議録は職員間で共有しております。出来るだけ、会議への参加も心がけております。	/	○	○	
		d	テーマに合わせて参加メンバーを増やしたり、メンバーが出席しやすい日程や時間帯について配慮・工夫をしている。	○	出来る限り職員の参加を心がけております。	/	○	/	
		e	運営推進会議の議事録を公表している。	○	玄関にファイルを置き、開示しております。	/	/	/	

項目 No.	評価項目	小項目	内容	自己評価	判断した理由・根拠	家族評価	地域評価	外部評価	実施状況の確認及び次のステップに向けて期待したいこと
IV.より良い支援を行うための運営体制									
41	理念の共有と実践	a	地域密着型サービスの意義を踏まえた事業所理念をつくり、代表者、管理者、職員は、その理念について共通認識を持ち、日々の実践が理念に基づいたものになるよう日常的に取り組んでいる。	○	全職員、施設の理念に基づき日常の業務を行っております。				
		b	利用者、家族、地域の人たちにも、理念をわかりやすく伝えている。	○	施設見学の際に説明しております。	x	x		
42	職員を育てる取り組み ※文言の説明 代表者：基本的には運営している法人の代表者であり、理事長や代表取締役が該当するが、法人の規模によって、理事長や代表取締役をその法人の地域密着型サービス部門の代表者として扱うのは合理的ではないと判断される場合、当該部門の責任者などを代表者として差し支えない。したがって、指定申請書に記載する代表者と異なることはありうる。	a	代表者は、管理者や職員一人ひとりのケアの実際と力量を把握し、計画的に法人内外の研修を受けられるよう取り組んでいる。	○	毎月一回は、研修会・勉強会に参加、自己研鑽しております。				年間計画を立てて研修を行っており、地区の医療機関が実施する研修会にも積極的に参加して職員のスキルアップに努めている。代表者は頻りに事業所を訪問して職員とコミュニケーションを図ることで、職員は気軽に相談できる働きやすい職場環境であると認識している。
		b	管理者は、OJT(職場での実務を通して行う教育・訓練・学習)を計画的に行い、職員が働きながらスキルアップできるよう取り組んでいる。	○	外部研修以外にも、講師を招き、研修会・勉強会を実施しスキルアップに取り組んでおります。				
		c	代表者は、管理者や職員個々の努力や実績、勤務状況を把握し、給与水準、労働時間、やりがいなど、各自が向上心を持って働けるよう職場環境・条件の整備に努めている。	○	職員個々の実績を把握、モチベーションを下げないように改善して下さっております。				
		d	代表者は管理者や職員が同業者と交流する機会を作り、ネットワークづくりや勉強会、相互研修などの活動を通して職員の意識を向上させていく取り組みをしている。(事業者団体や都道府県単位、市町単位の連絡会などへの加入・参加)	○	研修やGH連絡会に参加し、同業者とコミュニケーションが取れるようにしております。				
		e	代表者は、管理者や職員のストレスを軽減するための工夫や環境づくりに取り組んでいる。	○	取り組んでおります。	◎	◎	○	
43	虐待防止の徹底	a	代表者及び全ての職員は、高齢者虐待防止法について学び、虐待や不適切なケアに当たるのは具体的にどのような行為なのかを理解している。	○	研修会・勉強会で習得し、話し合いの場を持ち、職員間で共有しております。				3か月に1回身体拘束委員会を開催し、虐待防止研修、身体拘束防止研修の伝達や日々のケアの点検を行っている。不適切な言動に気づいた時はその都度注意喚起を行い、改善につなげており、対応方法や手順等について理解している。
		b	管理者は、職員とともに日々のケアについて振り返ったり話し合ったりする機会や場をつくっている。	○	申し送り・職員会で話し合っております。				
		c	代表者及び全ての職員は、虐待や不適切なケアが見逃されることがないように注意を払い、これらの行為を発見した場合の対応方法や手順について知っている。	○	身体拘束委員会の時に同時に、虐待防止についても話し合いをしております。				
		d	代表者、管理者は職員の疲労やストレスが利用者へのケアに影響していないか日常的に注意を払い、点検している。	○	職員個々に声掛けして、状態や気持ちの確認に努めております。				
44	身体拘束をしないケアの取り組み	a	代表者及び全ての職員が「指定基準における禁止の対象となる具体的な行為」や「緊急やむを得ない場合」とは何かについて正しく理解している。	○	研修会・勉強会で習得し、後日、申し送りなどで再確認しております。				
		b	どのようなことが身体拘束に当たるのか、利用者や現場の状況に照らし合わせて点検し、話し合う機会をつくっている。	○	申し送り・職員会で話し合っております。				
		c	家族等から拘束や施設への要望があっても、その弊害について説明し、事業所が身体拘束を行わないケアの取り組みや工夫の具体的な内容を示し、話し合いを重ねながら理解を図っている。	○	家族様からの要望はないが、身体拘束をしないケアの説明はしております。				

項目No.	評価項目	小項目	内容	自己評価	判断した理由・根拠	家族評価	地域評価	外部評価	実施状況の確認及び次のステップに向けて期待したいこと
45	権利擁護に関する制度の活用	a	管理者や職員は、日常生活自立支援事業や成年後見制度について学び、それぞれの制度の違いや利点などを含め理解している。	○	研修会・勉強会で習得し理解はしております。	/	/	/	
		b	利用者や家族の現状を踏まえて、それぞれの制度の違いや利点なども含め、パンフレット等で情報提供したり、相談にのる等の支援を行っている。	○	相談があれば支援を行っていきます。	/	/	/	
		c	支援が必要な利用者が制度を利用できるよう、地域包括支援センターや専門機関(社会福祉協議会、後見センター、司法書士等)との連携体制を築いている。	○	地域包括支援センターなどとの連携をとっております。	/	/	/	
46	急変や事故発生時の備え・事故防止の取り組み	a	怪我、骨折、発作、のど詰まり、意識不明等利用者の急変や事故発生時に備えて対応マニュアルを作成し、周知している。	○	対応マニュアルにより周知しております。	/	/	/	
		b	全ての職員は応急手当や初期対応の訓練を定期的に行い、実践力を身に付けている。	○	不定期ではあるが、初期対応の訓練を行っております。	/	/	/	
		c	事故が発生した場合の事故報告書はもとより、事故の一手手前の事例についてもヒヤリハットにまとめ、職員間で検討するなど再発防止に努めている。	○	ヒヤリハットの記録により共有しております。職員間で共有、再発防止につとめております。	/	/	/	
		d	利用者一人ひとりの状態から考えられるリスクや危険について検討し、事故防止に取り組んでいる。	○	入居時の状態から、どのようなリスクがあるか話し合い、事故防止に努めております。	/	/	/	
47	苦情への迅速な対応と改善の取り組み	a	苦情対応のマニュアルを作成し、職員はそれを理解し、適宜対応方法について検討している。	○	マニュアルを理解して、苦情については話し合い共有しております。	/	/	/	
		b	利用者や家族、地域等から苦情が寄せられた場合には、速やかに手順に沿って対応している。また、必要と思われる場合には、市町にも相談・報告等している。	○	管理者より理事・事務長・事務へ報告、対応しております。	/	/	/	
		c	苦情に対しての対策案を検討して速やかに回答するとともに、サービス改善の経過や結果を伝え、納得を得ながら前向きな話し合いと関係づくりを行っている。	○	苦情に対する解決策をよく検討した上で対応しております。	/	/	/	
48	運営に関する意見の反映	a	利用者が意見や要望、苦情を伝えられる機会をつくっている。(法人・事業所の相談窓口、運営推進会議、個別に訊く機会等)	○	運営推進会議の他、個別に適時、聞き取りをしております。	/	/	○	利用者からは日常会話の中で希望を聞き取るほか、介護計画更新時に意向の確認を行っている。家族からは電話や面会時に意見や要望を聞いている。管理者と職員は良い関係が築けており、日頃から気軽に何でも相談しており、職員は意見や提案を言いやすい職場環境であると感じており、常に話し合う機会を設けて利用者本位のケアに反映している。
		b	家族等が意見や要望、苦情を伝えられる機会をつくっている。(法人・事業所の相談窓口、運営推進会議、家族会、個別に訊く機会等)	○	運営推進会議の他、面会時や電話時にお声掛けし、お訊きしております。	◎	/	○	
		c	契約当初だけではなく、利用者・家族等が苦情や相談ができる公的な窓口の情報提供を適宜行っている。	○	管理者又は事務長を通して相談を受け付けております。	/	/	/	
		d	代表者は、自ら現場に足を運ぶなどして職員の意見や要望・提案等を直接聞く機会をつくっている。	○	個別の面談を設けて下さっています。	/	/	/	
		e	管理者は、職員一人ひとりの意見や提案等を聴く機会を持ち、ともに利用者本位の支援をしていくための運営について検討している。	○	日常的に常時、提案に耳を傾け検討しております。	/	/	○	

項目No.	評価項目	小項目	内容	自己評価	判断した理由・根拠	家族評価	地域評価	外部評価	実施状況の確認及び次のステップに向けて期待したいこと
49	サービス評価の取り組み	a	代表者、管理者、職員は、サービス評価の意義や目的を理解し、年1回以上全員で自己評価に取り組んでいる。	○	年に1回 自己評価を行っております。				目標達成計画に沿って改善に取り組んでおり、運営推進会議でも外部評価結果の報告を行っているが、家族や地域の人々への周知が不十分なため、事業所の取り組みについて理解してもらいモニターを依頼することを期待したい。
		b	評価を通して事業所の現状や課題を明らかにするとともに、意識統一や学習の機会として活かしている。	○	職員会で意識統一しております。				
		c	評価(自己・外部・家族・地域)の結果を踏まえて実現可能な目標達成計画を作成し、その達成に向けて事業所全体で取り組んでいる。	○	今までの『人生のあゆみ』と題して、入居前の多方面の情報を本人様・家族様から頂き、職員間で共有しケアに生かしております。				
		d	評価結果と目標達成計画を市町、地域包括支援センター、運営推進会議メンバー、家族等に報告し、今後の取り組みのモニターをしてもらっている。	△	報告は不十分でしたが、目標達成計画には取り組んでおります。	×	×	△	
		e	事業所内や運営推進会議等にて、目標達成計画に掲げた取り組みの成果を確認している。	○	『人生のあゆみ』の情報収集・職員間の共有は日常生活支援に役立ちました。				
50	災害への備え	a	様々な災害の発生を想定した具体的な対応マニュアルを作成し、周知している。(火災、地震、津波、風水害、原子力災害等)	○	災害時の対応マニュアルを作成しております。				様々な災害を想定した避難訓練を実施しており、隣接する店舗にも協力を依頼している。また、年1回地域の避難訓練に参加しており、訓練への参加を通してさらに地域との協力関係を構築して緊急災害時の利用者等の安全確保に万全を期して欲しい。
		b	作成したマニュアルに基づき、利用者が、安全かつ確実に避難できるよう、さまざまな時間帯を想定した訓練を計画して行っている。	○	防災訓練(避難訓練)は行っております。夜間想定、日中想定での訓練を行っております。				
		d	消火設備や避難経路、保管している非常用食料・備品・物品類の点検等を定期的に行っている。	○	定期的に行っております。				
		e	地域住民や消防署、近隣の他事業所等と日頃から連携を図り、合同の訓練や話し合う機会をつくるなど協力・支援体制を確保している。	×	隣にあるローソンが、協力して下さっております。	×	○	△	
		f	災害時を想定した地域のネットワークづくりに参加したり、共同訓練を行うなど、地域の災害対策に取り組んでいる。(県・市町、自治会、消防、警察、医療機関、福祉施設、他事業所等)	△	年に1回の地域の避難訓練には、必ず、参加しております。				
51	地域のケア拠点としての機能	a	事業所は、日々積み上げている認知症ケアの実践力を活かして地域に向けて情報発信したり、啓発活動等に取り組んでいる。(広報活動、介護教室等の開催、認知症サポーター養成研修や地域の研修・集まり等での講師や実践報告等)	×	地域への情報発信はできておりません。				入居についての相談があれば対応しているが、地域アンケートの評価が低いため、今後は事業所の相談支援について地域の理解が得られるよう努めて欲しい。管理者は、地域との関わりを大切に考え、積極的に地域行事に協力しているが、地域ケア拠点としての活動はこれからの取り組みであると感している。今後は職員で話し合いながら、地域に根ざし、地域住民に頼られる事業所になることを期待したい。
		b	地域の高齢者や認知症の人、その家族等への相談支援を行っている。	○	相談員により家族や地域の方の相談支援を行っております。		×	△	
		c	地域の人たちが集う場所として事業所を解放、活用している。(サロン・カフェ・イベント等交流の場、趣味活動の場、地域の集まりの場等)	×	できておりません。				
		d	介護人材やボランティアの養成など地域の人材育成や研修事業等の実習の受け入れに協力している。	○	実習生の受け入れを行っております。				
		e	市町や地域包括支援センター、他の事業所、医療・福祉・教育等各関係機関との連携を密にし、地域活動を協働しながら行っている。(地域イベント、地域啓発、ボランティア活動等)	△	ボランティア活動には参加しておりますが、地域への情報発信はできておりません。			△	

(別表第1)

サービス評価結果表

サービス評価項目

(評価項目の構成)

I.その人らしい暮らしを支える

(1)ケアマネジメント

(2)日々の支援

(3)生活環境づくり

(4)健康を維持するための支援

II.家族との支え合い

III.地域との支え合い

IV.より良い支援を行うための運営体制

ホップ 職員みんなで自己評価!
ステップ 外部評価でブラッシュアップ!!
ジャンプ 評価の公表で取組み内容をPR!!!

ーサービス向上への3ステップー

【外部評価実施評価機関】※評価機関記入

評価機関名	社会福祉法人 愛媛県社会福祉協議会
所在地	愛媛県松山市持田町三丁目8番15号
訪問調査日	令和1年12月4日

【アンケート協力数】※評価機関記入

家族アンケート	(回答数) 15名	(依頼数) 18名
地域アンケート回答数	10名	

※事業所記入

事業所番号	3870102732
事業所名 (ユニット名)	グループホーム 青い鳥 2F
記入者(管理者) 氏名	丹下 実子
自己評価作成日	令和 元 年 11 月 13 日

<p>【自分らしく】</p> <p>地域に密着したサービスを行い、馴染みのスタッフにより利用者様へ安心・安全に生活して頂けるホームを目指す。 また、併設のクリニックと連携を取りながら、健康管理に努める。</p>	<p>【前回の目標達成計画で取り組んだこと・その結果】</p> <p>○本人様の暮らし方への思いを整理し、共有化する為の記録ができていない。入居時の情報も含め、記録に残し情報を共有する。⇒一人ひとりの情報収集を行い、得た情報をまとめ 常時、職員が把握・共有できる様作成しました。それを踏まえうえで、コミュニケーション・日常生活支援にかかわっております。引き続き今後の情報も必要あれば記入して共有していきたいと思ひます。経過記録の記入も同様です。 ○介護計画に沿ったケアの実践が不十分である。サービス実施表の充実。⇒毎日、サービス実施表を記録する。介護計画項目ごとに評価を記入する。などを実施していますが、単調になりつつあります。 ○地域との交流が少ない。リニューアルと共に前進していく。⇒地域の公園清掃に参加(月1回)・中学生の訪問(花壇の手入れ・防火訓練)などの交流がありました。</p>	<p>【今回、外部評価で確認した事業所の特徴】</p> <p>3年前に全面改装を行って再開した事業所は、隅々まで環境整備が行き届き、清潔で美しい。高い人権意識を持つ管理者の強力なリーダーシップのもと、話し合いを重ねながらサービスの質の向上に取り組んでいる。職員は利用者一人ひとりが持っている能力を把握し、力が発揮できるよう支援しており、食事中も職員の利用者に対する穏やかな声かけと気配りが感じられた。また、地域との関わりを大切に考え、積極的に地域行事に協力している。日常の実践を謙虚に振り返りつつ、課題を発見して改善に結びつけようとする意欲的に取り組んでいる事業所である。</p>
---	---	--

評価結果表

項目No.	評価項目	小項目	内容	自己評価	判断した理由・根拠	家族評価	地域評価	外部評価	実施状況の確認及び次のステップに向けて期待したいこと
I.その人らしい暮らしを支える									
(1)ケアマネジメント									
1	思いや暮らし方の希望、意向の把握	a	利用者一人ひとりの思いや暮らし方の希望、意向の把握に努めている。	○	入居前か入居時に必ず、本人様・家族様にお尋ねします。そして、職員間で共有に努めております。	◎	/	○	利用者との会話の中で聞いた言葉を大切に受け止め、思いや意向の把握に努めている。意思表示が困難な利用者は、普段と異なる表情やしぐさで推測したり、家族に確認したりして把握に努めている。
		b	把握が困難な場合や不確かな場合は、「本人はどうか」という視点で検討している。	○	本人様の視点での検討を心がけております。家族様のアドバイスを参考にしております。	/	/	/	
		c	職員だけでなく、本人をよく知る人(家族・親戚・友人等)とともに、「本人の思い」について話し合っている。	○	ご面会に来られた時にお尋ねすることが多く、特別に時間は取っていません。特別に必要な時は話し合いの場をもちます。	/	/	/	
		d	本人の暮らし方への思いを整理し、共有化するための記録をしている。	○	入居前の暮らしをお尋ねして整理・記録して職員間で共有しております。	/	/	/	
		e	職員の思い込みや決めつけにより、本人の思いを見落とさないように留意している。	○	些細な言動も記録・申し送りに心がけております。	/	/	/	
2	これまでの暮らしや現状の把握	a	利用者一人ひとりの生活歴や馴染みの暮らし方、こだわりや大切にしてきたこと、生活環境、これまでのサービス利用の経過等、本人や本人をよく知る人(家族・親戚・友人等)から聞いている。	○	可能な限りの情報収集には務めております。本人様をよく知る方が少なく、本人様も困難な現状も多々見られます。	/	/	○	入居時に利用者と家族から情報を収集すると共に、関係機関からも情報を得てフェイスシートに記録している。利用者の理解を深めるため、入居後に知り得た情報を人生のあゆみ(所定用紙)にまとめて記録して共有している。
		b	利用者一人ひとりの心身の状態や有する力(わかること・できること・できそうなこと等)等の現状の把握に努めている。	○	経過記録を会話文などを取り入れて些細な状態の把握に努めております。	/	/	/	
		c	本人がどのような場所や場面で安心したり、不安になったり、不安定になったりするかを把握している。	○	不穏時の状態・様子も経過記録に詳細を記録し、職員間で共有しております。	/	/	/	
		d	不安や不安定になっている要因が何かについて、把握に努めている。(身体面・精神面・生活環境・職員のかかり等)	○	家族様・主治医のアドバイスをいただいたり、カンファレンスで話し合ったりしております。	/	/	/	
		e	利用者一人ひとりの一日の過ごし方や24時間の生活の流れ・リズム等、日々の変化や違いについて把握している。	○	申し送り・経過記録・カンファレンスで把握に努めております。	/	/	/	
3	チームで行うアセスメント(※チームとは、職員のみならず本人・家族・本人をよく知る関係者等を含む)	a	把握した情報をもとに、本人が何を求め必要としているのかを本人の視点で検討している。	○	本人様・本人様が困難な時はキーパーソンの方と相談、検討しております。	/	/	○	利用者一人ひとりが自分らしく暮らせるよう、利用者ができることやしたいことを大切に考えて生活課題を検討している。
		b	本人がより良く暮らすために必要な支援とは何かを検討している。	○	申し送り・担当者会議で話し合っております。	/	/	/	
		c	検討した内容に基づき、本人がより良く暮らすための課題を明らかにしている。	△	一人ひとりの具体的な内容には不十分です。	/	/	/	

項目No.	評価項目	小項目	内容	自己評価	判断した理由・根拠	家族評価	地域評価	外部評価	実施状況の確認及び次のステップに向けて期待したいこと
4	チームでつくる本人がより良く暮らすための介護計画	a	本人の思いや意向、暮らし方が反映された内容になっている。	○	本人様の思いがなかなか明確でないです。本人様の思いや意向を取り入れております。	/	/	/	利用者や家族の意向を聞き取り、計画作成担当者が、医療情報等を含めて理解しやすいように介護計画に反映させている。
		b	本人がより良く暮らすための課題や日々のケアのあり方について、本人、家族等、その他関係者等と話し合い、それぞれの意見やアイデアを反映して作成している。	○	3か月に1回の担当者会議に、家族様の参加が難しいので、面会時などに思い・ご意向をおたずねしております。	○	/	○	
		c	重度の利用者に対しても、その人が慣れ親しんだ暮らし方や日々の過ごし方ができる内容となっている。	○	家族様から出来る限りの情報をいただき協力もいただいております。	/	/	/	
		d	本人の支え手として家族等や地域の人たちとの協力体制等が盛り込まれた内容になっている。	△	中学生のボランティア活動と一緒に花壇の手入れが出来ました。	/	/	/	
5	介護計画に基づいた日々の支援	a	利用者一人ひとりの介護計画の内容を把握・理解し、職員間で共有している。	○	サービス実施表の記録・担当者会議で共有しております。	/	/	○	サービス担当者会議の議事録やサービス実施表に介護計画の援助方針を記載して共有しており、日々確認しながらサービス実施状況を記録してモニタリングに反映させている。また、利用者の言葉を大切に記録に残し、利用者の心情の理解に努めている。職員の気づきや提案はその都度話し合い、申し送りノートに記載し共有している。
		b	介護計画にそってケアが実践できたか、その結果どうだったかを記録して職員間で状況確認を行うとともに、日々の支援につなげている。	○	日々、サービス実施表での評価・記録、経過記録、申し送りでの日々の支援につなげております。	/	/	○	
		c	利用者一人ひとりの日々の暮らしの様子(言葉・表情・しぐさ・行動・身体状況・エピソード等)や支援した具体的内容を個別に記録している。	○	サービス実施表・経過記録に記録しております。	/	/	○	
		d	利用者一人ひとりについて、職員の気づきや工夫、アイデア等を個別に記録している。	○	サービス実施表・経過記録に記録しております。	/	/	○	
6	現状に即した介護計画の見直し	a	介護計画の期間に応じて見直しを行っている。	○	通常3か月に1回、入居時は1か月に1回、状態変化が見られたときはその都度しております。	/	/	◎	月に1回モニタリングシートに沿って目標の達成状況を確認しており、状態の変化がない場合も3か月に1回介護計画の見直しをしている。状態の変化があった場合はその都度医師を交えて協議し、現状に即した内容になるよう見直し、新たな介護計画を作成している。
		b	新たな要望や変化がみられない場合も、月1回程度は現状確認を行っている。	○	モニタリングシートを活用して現状確認しております。	/	/	◎	
		c	本人の心身状態や暮らしの状態に変化が生じた場合は、随時本人、家族等、その他関係者等と見直しを行い、現状に即した新たな計画を作成している。	○	本人様・家族様・主治医と話し合い、見直した計画を作成しております。	/	/	○	
7	チームケアのための会議	a	チームとしてケアを行う上での課題を解決するため、定期的、あるいは緊急案件がある場合にはその都度会議を開催している。	○	不定期ではあるが、必要時、その都度している。例えば、ヒヤリハット事例があり今後の対応についての話し合いの場をもっております。	/	/	◎	毎月職員会議を開催してケア内容の検討を行うほか、緊急時はその都度出勤者で協議している。参加できない職員には、会議録を回覧・確認するほか、口頭や申し送りノート等でも確認する等、情報を正確に伝えるようにしている。
		b	会議は、お互いの情報や気づき、考え方や気持ちを率直に話し合い、活発な意見交換ができるよう雰囲気や場づくりを工夫している。	○	職員一人ひとり自分の思いを伝え活発な意見交換・話し合いができております。	/	/	/	
		c	会議は、全ての職員を参加対象とし、可能な限り多くの職員が参加できるよう開催日時や場所等、工夫している。	○	すべての職員が参加対象ですが、全員参加は難しいです。時間・場所は工夫しております。	/	/	/	
		d	参加できない職員がいた場合には、話し合われた内容を正確に伝えるしくみをつくっている。	○	何度かに分け全員参加を心がけている。参加できなかった職員は会議録を利用しております。	/	/	○	
8	確実な申し送り、情報伝達	a	職員間で情報伝達すべき内容と方法について具体的に検討し、共有できるしくみをつくっている。	○	申し送りノート・業務日誌・排泄記録表(出納チェック)・検温表と口頭での申し送りで共有しております。	/	/	○	職員が共有すべき情報は、日誌や申し送りノートを活用して伝達し、確認後に捺印する等、確実に共有できるようにしている。
		b	日々の申し送りや情報伝達を行い、重要な情報は全ての職員に伝わるようにしている。(利用者の様子・支援に関する情報・家族とのやり取り・業務連絡等)	○	申し送りノート・口頭で伝達しております。ノートは確認後は捺印しております。	◎	/	/	

項目No.	評価項目	小項目	内容	自己評価	判断した理由・根拠	家族評価	地域評価	外部評価	実施状況の確認及び次のステップに向けて期待したいこと
(2) 日々の支援									
9	利用者一人ひとりの思い、意向を大切にしたい支援	a	利用者一人ひとりの「その日したいこと」を把握し、それを叶える努力を行っている。	△	意思の伝達が困難な方がほとんどです。声掛けだけでは不十分です。努力はしておりますが実施にはつながっていません。	/	/	/	毎日の衣服やおやつ時の飲み物のほか、様々な娯楽用品を準備して選んでもらう等、日常生活のあらゆる場面で自分で選択できるようにしている。職員は利用者が笑顔で過ごせるよう楽しい話題を提供して雰囲気づくりに努めており、調査日も和やかな笑い声が聞こえていた。
		b	利用者が日々の暮らしの様々な場面で自己決定する機会や場をつくっている。(選んでもらう機会や場をつくる、選ぶのを待っている等)	○	その日の洋服選び・その日のレクリエーションでしたい事選び・おやつ飲み物選び・見たいTV選びなどです。	/	/	/	
		c	利用者が思いや希望を表現するように働きかけたり、わかる力に合わせた支援を行うなど、本人が自分で決めたり、納得しながら暮らせるよう支援している。	○	利用者様一人ひとりの楽しみを見つけ職員と共有する事を目標としております。	/	/	/	
		d	職員側の決まりや都合を優先するのではなく、一人ひとりのペースや習慣を大切にしたい支援を行っている。(起床・就寝、食事・排泄・入浴等の時間やタイミング・長さ等)	○	利用者様のペースで過ごしていただける支援に努めております。一人ひとりのペースを大切にしております。	/	/	/	
		e	利用者の活き活きした言動や表情(喜び・楽しみ・うるおい等)を引き出す言葉がけや雰囲気づくりをしている。	○	フロアーにすぐ手が届く場所に娯楽用品を置いています。掃除道具も気が付く場所に置いていません。活き活きした言葉にまではつながっていません。	/	/	/	
		f	意思疎通が困難で、本人の思いや意向がつかめない場合でも、表情や全身での反応を注意深くキャッチしながら、本人の意向にそった暮らし方ができるよう支援している。	○	表情・全身の反応を観察し、他の職員・家族様のアドバイスも頂き、本人様の意向にそった暮らしができる様支援しております。	/	/	/	
10	一人ひとりの誇りやプライバシーを尊重した関わり	a	職員は、「人権」や「尊厳」とは何かを学び、利用者の誇りやプライバシーを大切にしたい言葉かけや態度等について、常に意識して行動している。	○	職員は各自、勉強会・研修などで習得し実践に心がけております。	◎	◎	◎	新人職員は初期オリエンテーションにおいて、その他の職員は接遇研修の機会を設けて利用者の人権や尊厳について学んでおり、利用者は人生の先輩であることを認識して尊敬の念を持って接するよう努めている。管理者は排泄や入浴介助時は自分に置き換えて考える等、羞恥心に配慮するよう指導しており、徹底した人権意識を醸成するよう努めている。居室の扉は利用者の希望に沿って開閉されており、職員は声をかけてノックをしてから居室に入室していた。
		b	職員は、利用者一人ひとりに対して敬意を払い、人前であからさまな介護や誘導の声かけをしないよう配慮しており、目立たずさりげない言葉がけや対応を行っている。	○	いつ、何時も、利用者様の気持ち・立場になってケアを実践しております。	/	/	/	
		c	職員は、排泄時や入浴時には、不安や羞恥心、プライバシー等に配慮しながら介助を行っている。	○	オムツチェック前・更衣前は必ず、声掛けしております。	/	/	/	
		d	職員は、居室は利用者専用の場所であり、プライバシーの場所であることを理解し、居室への出入りなど十分配慮しながら行っている。	○	入室時はノックと声掛け、退室時も声掛けを行っております。	/	/	/	
		e	職員は、利用者のプライバシーの保護や個人情報漏えい防止等について理解し、遵守している。	○	守秘義務を理解して厳守しております。	/	/	/	
11	ともに過ごし、支え合う関係	a	職員は、利用者を介護される一方の立場におかず、利用者に助けをもらったり教えてもらったり、互いに感謝し合うなどの関係性を築いている。	○	利用者様は皆様、人生の先輩として学ぶべきことが多々見られます。話し合ったり教えていただいたり関係性を築いております。	/	/	/	利用者同士の関係を把握し、利用者の意志を尊重しながら見守っており、トラブルが起きそうな場合は適宜職員が仲介している。利用者同士が不穏な雰囲気を感じて声をかけることや、食事を勧めるように声をかける等助け合う場面もある。食事中も隣の利用者のテーブル等を拭く様子が窺えた。
		b	職員は、利用者同士がともに助け合い、支え合って暮らしていくことの大切さを理解している。	○	グループホームの本来の目的として理解しております。	/	/	/	
		c	職員は、利用者同士の関係を把握し、トラブルになったり孤立したりしないよう、利用者同士が関わり合い、支え合えるような支援に努めている。(仲の良い利用者同士が過ごせる配慮をする、孤立しがちな利用者が交わえる機会を作る、世話役の利用者にうまく力を発揮してもらい場面をつくる等)。	○	トラブル発生時には職員が仲介に入り解決しております。利用者様の性格やそれぞれの有する能力・ここの役割を職員が把握し、利用者様同士よい関係が保てるよう支援しております。	/	/	/	
		d	利用者同士のトラブルに対して、必要な場合にはその解消に努め、当事者や他の利用者には不安や支障を生じさせないようにしている。	○	職員が仲介に入り、出来るだけ早く解決に心がけております。他の利用者様に影響がないよう心がけております。	/	/	/	

項目 No.	評価項目	小項目	内容	自己評価	判断した理由・根拠	家族評価	地域評価	外部評価	実施状況の確認及び次のステップに向けて期待したいこと
12	馴染みの人や場との関係継続の支援	a	これまで支えてくれたり、支えてきた人など、本人を取り巻く人間関係について把握している。	○	事前訪問・サマリー・本人様との会話などから情報収集しております。				
		b	利用者一人ひとりがこれまで培ってきた地域との関係や馴染みの場所などについて把握している。	○	本人様から情報収集しております。				
		c	知人や友人等に会いに行ったり、馴染みの場所に出かけていくなど本人がこれまで大切にしてきた人や場所との関係が途切れないよう支援している。	○	個人差はあります。職員はそういった関係が途切れないように！ということ把握して、家族様の協力のもと支援しております。				
		d	家族、知人、友人等、本人の馴染みの人たちが、いつでも気軽に訪れ、居心地よく過ごせるよう工夫している。	○	面会時間の制限もなく、居室でもフロアーでも過ごせます。				
13	日常的な外出支援	a	利用者が、1日中ホームの中で過ごすことがないよう、一人ひとりのその日の希望にそって、戸外に出かけられるよう取り組んでいる。(職員側の都合を優先したり、外出する利用者、時間帯、行き先などが固定化していない)(※重度の場合は、戸外に出て過ごすことも含む)	△	一人ひとりの希望に沿った日常的な外出は出来ておりません。希望があればホーム周辺を散歩(お地藏様・公園など)は出来る様にしてあります。	×	△	△	天候の良い時は週1回程度近くの公園まで散歩に出たり、隣接する商業施設まで買い物に出かけたりしている。家族と共に花見に出かけることもある。重度の利用者を含めて、掃き出し窓から広々としたテラスに出ることができるため、外気浴や、屋外でおやつを食べる等しているが、外出の機会が少なく近所の人々と出会う機会があまりないため、今後は地域に理解と協力を得て、利用者が地域住民と関わりながら外出する機会を増えることを期待したい。
		b	地域の人やボランティア、認知症サポーター等の協力も得ながら、外出支援をすすめている。	×	地域の方との外出支援はありませんでした。家族様の協力は頂いております。				
		c	重度の利用者も戸外で気持ち良く過ごせるよう取り組んでいる。	○	1Fにウッドデッキがあり日光浴は可能です。			△	
		d	本人の希望を把握し、家族や地域の人々と協力しながら、普段は行けないような場所でも出かけられるように支援している。	○	利用者様の(その方の)希望の場所の把握が難しいです。それがわかれば出かけられるよう支援しております。				
14	心身機能の維持、向上を図る取り組み	a	職員は認知症や行動・心理症状について正しく理解しており、一人ひとりの利用者の状態の変化や症状を引き起こす要因をひもとき、取り除くケアを行っている。	○	日々のかかわりの中で状態を把握し、家族様・主治医・職員の情報も得て原因を調べてケアに努めております。				期間ごとにアセスメントを行って利用者一人ひとりの能力を把握しており、職員は極力介助等を行わず、待つ介護に努めている。食事の下膳や食器洗い、テーブル拭き等利用者ができることに着目して能力を発揮できるようにしている。
		b	認知症の人の身体面の機能低下の特徴(筋力低下・平衡感覚の悪化・排泄機能の低下・体温調整機能の低下・嚥下機能の低下等)を理解し、日常生活を営む中で自然に維持・向上が図れるよう取り組んでいる。	○	例えば、できる限りトイレでの排泄を心がけております。夜間もトイレ誘導を心がけております。				
		c	利用者の「できること、できそうなこと」については、手や口を極力出さずに見守ったり一緒に行うようにしている。(場面づくり、環境づくり等)	○	お手伝いとして、下膳・食器洗い・食器拭き・テーブル拭きなどを一緒に行ったり、自分の排泄時間を記録していただいたりしております。自立支援のケアを心がけております。	◎		○	
15	役割、楽しみごと、気晴らしの支援	a	利用者一人ひとりの生活歴、習慣、希望、有する力等を踏まえて、何が本人の楽しみごとや役割、出番になるのかを把握している。	○	利用者様から楽しみを教えて下さることは少ないのですが、職員が普段の様子から把握し生活に組み込んでおります。				利用者の特技や趣味を把握して、役割や出番が持てるよう支援している。息子の世話をするため定期的に帰宅する利用者がある等、張り合いや喜びのある生活を送っており、それが生きがいにつながっている。
		b	認知症や障害のレベルが進んでも、張り合いや喜びのある日々を過ごせるように、日常的に、一人ひとりの楽しみごとや役割、出番をつくる取り組みを行っている。	○	一人ひとりの楽しみを把握して、日常生活がマンネリ化しないよう心がけております。	◎	○	○	
		c	地域の中で役割や出番、楽しみ、張り合いが持てるよう支援している。	○	中学生のボランティア活動と一緒に花壇の手入れ・防火訓練が出来ました。中学生の訪問が楽しみの一つの様です。				

項目No.	評価項目	小項目	内容	自己評価	判断した理由・根拠	家族評価	地域評価	外部評価	実施状況の確認及び次のステップに向けて期待したいこと
16	身だしなみやおしゃれの支援	a	身だしなみを本人の個性、自己表現の一つととらえ、その人らしい身だしなみやおしゃれについて把握している。	○	好きな洋服・好きな色を把握しております。				服装の汚れや乱れに気づいた時は、さりげなく声をかけて居室に戻り着替えてもらう等配慮している。重度の利用者を含め、好みの色やデザイン等を家族に確認し、毎日お気に入りの服装にする等、その人らしさが保てるよう努めている。
		b	利用者一人ひとりの個性、希望、生活歴等に応じて、髪形や服装、持ち物など本人の好みで整えられるように支援している。	○	家族様に協力して頂き、利用者様の好みで整えられるよう支援しております。				
		c	自己決定がしにくい利用者には、職員と一緒に考えたりアドバイスする等本人の気持ちにそって支援している。	○	例えば、入浴準備で着替える洋服を一緒に選んだりして支援しております。				
		d	外出や年中行事等、生活の彩りにあわせてその人らしい服装を楽しめるよう支援している。	○	家族様の協力のもと支援しております。				
		e	整容の乱れ、汚れ等に対し、プライドを大切にしたりさげなくカバーしている。(髭、着衣、履き物、食べこぼし、口の周囲等)	○	声掛けや場所に細心の注意を払い支援しております。	◎	○	○	
		f	理容・美容は本人の望む店に行けるように努めている。	○	ご本人様が行きつけの店を希望される方は、家族様の協力のもと行っていただいております。				
		g	重度な状態であっても、髪形や服装等本人らしさが保てる工夫や支援を行っている。	○	家族様と相談し、協力を得て支援しております。			○	
17	食事を楽しむことのできる支援	a	職員は、食事の一連のプロセスの意味や大切さを理解している。	○	研修会・勉強会などで、各自、習得して理解に努めております。				法人の管理栄養士に相談し、利用者の希望を取り入れながら献立を考えており、3食をユニットで調理している。時には弁当を注文するなど柔軟に対応している。菜園で収穫した野菜を使って調理することや、懐かしいお菓子をおやつに用意することもある。利用者は食後の片付けを分担して手伝うことが日課になっており、訪問当日も職員と一緒に台所に立っていた。茶碗や湯呑、箸は利用者が使いやすい専用のものを使用して食べている。職員と一緒に食卓を囲み、利用者の様子に気を配り優しく声をかけサポートしながら食事をしていた。重度の利用者を含め、食事までの調理の音や匂い等雰囲気を感じており、利用者全員で食卓を囲み、和やかな雰囲気の中で食事をすると風景を窺えた。利用者の栄養面は、職員間で定期的に話し合いバランスの取れた栄養が摂れるように努めている。
		b	買い物や献立づくり、食材選び、調理、後片付け等、利用者とともにやっている。	△	後片付けは毎日のお手伝いとして一緒にしております。			○	
		c	利用者とともに買い物、調理、盛り付け、後片付けをする等を行うことで、利用者の力の発揮、自信、達成感につなげている。	○	後片付けは日課のように捉えられ手際よく行われます。自信・達成感につながっております。				
		d	利用者一人ひとりの好きなものや苦手なもの、アレルギーの有無などについて把握している。	○	家族様・利用者様の情報により把握しております。				
		e	献立づくりの際には、利用者の好みや苦手なもの、アレルギー等を踏まえつつ、季節感を感じさせる旬の食材や、利用者にとって昔ながらの味のものを取り入れている。	○	メニューに旬の食材を入れたり、おやつに懐かしいお菓子をお出ししております。			○	
		f	利用者一人ひとりの咀嚼・嚥下等の身体機能や便秘・下痢等の健康状態にあわせて調理方法としつつ、おいしそうな盛り付けの工夫をしている。(安易にミキサー食や刻み食で対応しない、いろどりや器の工夫等)	○	利用者様の状態把握を踏まえ、主治医・看護師と連携し献立と食事形態を工夫して決めています。				
		g	茶碗や湯飲み、箸等使いやすいものを使用している。	○	個人持ちの馴染みのある食器を使用しております。			○	
		h	職員も利用者と同じ食卓を囲んで食事を一緒に食べながら一人ひとりの様子を見守り、食事のペースや食べ方の混乱、食べこぼしなどに対するサポートをさりげなく行っている。	○	全職員一緒に困難ですが、出来るだけ職員も利用者様と一緒に食卓を囲み食事を摂る様にしてあります。			○	
		i	重度な状態であっても、調理の音やにおい、会話などを通して利用者が食事が待ち遠しくおいしく味わえるよう、雰囲気づくりや調理に配慮している。	△	フローアまでお連れし、雰囲気を感じ、調理の音やにおいを感じていただくように心がけております。	◎		○	
		j	利用者一人ひとりの状態や習慣に応じて食べられる量や栄養バランス、カロリー、水分摂取量が1日を通じて確保できるようにしている。	○	1日の水分摂取量のチェックは全員しております。献立表は同施設の献立を参考にしており、同施設の管理栄養士からのアドバイスも頂いております。				
		k	食事量が少なかったり、水分摂取量の少ない利用者には、食事の形態や飲み物の工夫、回数やタイミング等工夫し、低栄養や脱水にならないよう取り組んでいる。	○	摂取量の少ない時は主治医に連絡、形態の変更や栄養ドリンクの補食の使用などの指示をいただきケアしております。				
		l	職員で献立のバランス、調理方法などについて定期的に話し合い、偏りがないように配慮している。場合によっては、栄養士のアドバイスを受けている。	○	必要時、同施設の管理栄養士のアドバイスを頂いております。			○	
		m	食中毒などの予防のために調理用具や食材等の衛生管理を日常的に行い、安全で新鮮な食材の使用と管理に努めている。	○	清潔に保つよう努めております。				

項目No.	評価項目	小項目	内容	自己評価	判断した理由・根拠	家族評価	地域評価	外部評価	実施状況の確認及び次のステップに向けて期待したいこと
18	口腔内の清潔保持	a	職員は、口腔ケアが誤嚥性肺炎の防止につながることを知っており、口腔ケアの必要性、重要性を理解している。	○	研修会・勉強会などで、各自、習得して理解に努めております。	/	/	/	利用者一人ひとりの口腔内の状態を3か月ごとに把握して口腔ケア確認表に記録し、予防や異常の早期発見に努めている。毎食後口腔内の汚れ等がないようにケアを実施するほか、義歯は毎晩洗浄液に浸け、清潔保持を継続するようになっている。
		b	利用者一人ひとりの口の中の健康状況(虫歯の有無、義歯の状態、舌の状態等)について把握している。	○	口腔ケア確認表を利用して把握しております。	/	/	◎	
		c	歯科医や歯科衛生士等から、口腔ケアの正しい方法について学び、日常の支援に活かしている。	○	訪問歯科のDrの勉強会があります。全員参加を促しております。必要時、アドバイスも頂いております。	/	/	/	
		d	義歯の手入れを適切に行えるよう支援している。	○	毎食後、口腔ケア実施している。夜間は除去、洗浄液に浸けている。	/	/	/	
		e	利用者の力を引き出しながら、口の中の汚れや臭いが生じないように、口腔の清潔を日常的に支援している。(歯磨き・入れ歯の手入れ・うがい等の支援、出血や炎症のチェック等)	○	口腔ケア確認表を表を利用して。異常があればDrに報告している。	/	/	○	
		f	虫歯、歯ぐきの腫れ、義歯の不具合等の状態をそのままにせず、歯科医を受診するなどの対応を行っている。	○	訪問歯科を利用しております。	/	/	/	
19	排泄の自立支援	a	職員は、排泄の自立が生きる意欲や自信の回復、身体機能を高めることにつながることや、おむつ(紙パンツ・パッドを含む)の使用が利用者の心身に与えるダメージについて理解している。	○	研修会・勉強会などで、各自、習得して理解に努めております。	/	/	/	夜間のみおむつを使用している利用者が少数いるが、日中夜間共にトイレで排泄ができるよう支援している。排泄状態を詳細に記録して職員間で話し合い、時間帯や排泄量に合わせて適切な排泄用品を使用できるように検討している。
		b	職員は、便秘の原因や及ぼす影響について理解している。	○	理解し、Dr指示のもと排便コントロールしております。	/	/	/	
		c	本人の排泄の習慣やパターンを把握している。(間隔、量、排尿・排便の兆候等)	○	排泄チェック表・申し送りして把握しております。	/	/	/	
		d	本人がトイレで用を足すことを基本として、おむつ(紙パンツ・パッドを含む)使用の必要性や適切性について常に見直し、一人ひとりのその時々状態にあった支援を行っている。	○	一人ひとりのその時その時の状態に応じて見直し、適切な使い分けをしております。	/	◎	○	
		e	排泄を困難にしている要因や誘因を探り、少しでも改善できる点はないか検討しながら改善に向けた取り組みを行っている。	○	利用者様一人ひとりの状態を職員間で共有しております。トイレでの自立支援を目標にしております。	/	/	/	
		f	排泄の失敗を防ぐため、個々のパターンや兆候に合わせて早めの声かけや誘導を行っている。	○	時間毎の声掛け・トイレ誘導、各々のパターンに合わせた誘導をしております。	/	/	/	
		g	おむつ(紙パンツ・パッドを含む)を使用する場合は、職員が一方的に選択するのではなく、どういう時間帯にどのようなものを使用するか等について本人や家族と話し合い、本人の好みや自分で使えるものを選択できるよう支援している。	○	職員が提案・アドバイスしておりますが、決定は利用者様・家族様にさせていただいております。	/	/	/	
		h	利用者一人ひとりの状態に合わせて下着やおむつ(紙パンツ・パッドを含む)を適時使い分けしている。	○	状態に応じて使い分けております。	/	/	/	
		i	飲食物の工夫や運動への働きかけなど、個々の状態に応じて便秘予防や自然排便を促す取り組みを行っている。(薬に頼らない取り組み)	○	水分補給・腹部マッサージ・運動などの声掛けをして自然排便を促すようケアしております。	/	/	/	
20	入浴を楽しむことができる支援	a	曜日や時間帯を職員の都合で決めてしまわずに、利用者一人ひとりの希望や習慣にそって入浴できるよう支援している。(時間帯、長さ、回数、温度等)	○	曜日の予定は決めておりますが、その時その時、希望があれば希望に沿うようにしております。	/	◎	○	週2回入浴を基本とし、和式家庭浴槽にゆったりと入浴ができるよう支援している。利用者専用のシャンプーの使用や湯の温度等、利用者の希望にも応じている。また、受診前日の入浴希望にも対応する等、柔軟に対応している。
		b	一人ひとりが、くつろいだ気分に入浴できるよう支援している。	○	スタッフのコミュニケーションでくつろいで頂けるよう支援しております。	/	/	/	
		c	本人の力を活かしながら、安心して入浴できるよう支援している。	○	出来ることはしていただき、見守りしております。自立支援のケアをしております。	/	/	/	
		d	入浴を拒む人に対しては、その原因や理由を理解しており、無理強いせず気持ちよく入浴できるよう工夫している。	○	原因・理由を職員間で話し合い共有しております。出来るだけ希望に沿い、無理強いはしていません。	/	/	/	
		e	入浴前には、その日の健康状態を確認し、入浴の可否を見極めるとともに、入浴後の状態も確認している。	○	入浴前にはバイタルサインの測定を行い、可否決定に困った時は主治医に指示を仰いでおります。	/	/	/	

項目No.	評価項目	小項目	内容	自己評価	判断した理由・根拠	家族評価	地域評価	外部評価	実施状況の確認及び次のステップに向けて期待したいこと
21	安眠や休息の支援	a	利用者一人ひとりの睡眠パターンを把握している。	○	経過記録・申し送りにて把握しております。				夜間眠れるよう日中活動する時間を増やす等過ごし方に工夫している。不眠時は温かいお茶を勧める等して職員が対応しており、安易に薬剤に頼らないようにしている。
		b	夜眠れない利用者についてはその原因を探り、その人本来のリズムを取り戻せるよう1日の生活リズムを整える工夫や取り組みを行っている。	○	まずは、昼間は活動への声掛けをして、昼夜逆転防止に努めております。				
		c	睡眠導入剤や安定剤等の薬剤に安易に頼るのではなく、利用者の数日間の活動や日中の過ごし方、出来事、支援内容などを十分に検討し、医師とも相談しながら総合的な支援を行っている。	○	一人ひとりの状態を職員間で共有し、主治医に報告して指示をいただいております。			◎	
		d	休息や昼寝等、心身を休める場面が個別に取れるよう取り組んでいる。	○	居室ですんでいただいております。				
22	電話や手紙の支援	a	家族や大切な人に本人自らが電話をしたり、手紙のやり取りができるように支援をしている。	○	希望に応じて支援しております。				/
		b	本人が手紙が書けない、電話はかけられないと決めつけず、促したり、必要な手助けをする等の支援を行っている。	○	声掛けしております。必要な時は、見守り・手助け致します。				
		c	気兼ねなく電話できるよう配慮している。	△	希望には応じております。				
		d	届いた手紙や葉書をそのままにせず音信がとれるように工夫している。	○	家族様に連絡したり、お返事を促したりしております。				
		e	本人が電話をかけることについて家族等に理解、協力をしてもらうとともに、家族等からも電話や手紙をくれるようお願いしている。	△	利用者様から希望があった時、先ず職員が連絡して要件を伝え、承諾を得た上で電話を替わるようにしております。				
23	お金の所持や使うことの支援	a	職員は本人がお金を所持すること、使うことの意味や大切さを理解している。	△	理解はしておりますが、トラブル防止のため、一部の利用者様のみ所持しております。				/
		b	必要物品や好みの買い物に出かけ、お金の所持や使う機会を日常的につくっている。	△	お金を使う機会は日常的にはつくっていません。				
		c	利用者が気兼ねなく安心して買い物ができるよう、日頃から買い物先の理解や協力を得る働きかけを行っている。	△	利用者様個人で行くことはなく、買い物先の理解もできていません。				
		d	「希望がないから」「混乱するから」「失くすから」などと一方的に決めてしまうのではなく、家族と相談しながら一人ひとりの希望や力に応じて、お金を所持したり使えるように支援している。	○	家族様と話し合い、希望に応じて所持して頂いております。現在、本人様の希望が強く1名の方が所持されております。				
		e	お金の所持方法や使い方について、本人や家族と話し合っている。	○	所持されている利用者様の家族様とは話し合っております。				
		f	利用者が金銭の管理ができない場合には、その管理方法や家族への報告の方法などルールを明確にしており、本人・家族等の同意を得ている。(預り金規程、出納帳の確認等)。	△	職員が気付いた時は家族様に報告しております。ルール作りは利用者様の理解が困難のように思われます。				
24	多様なニーズに応える取り組み		本人や家族の状況、その時々々のニーズに対応して、既存のサービスに捉われない、柔軟な支援やサービスの多機能化に取り組んでいる。	△	その都度、一人ひとりのニーズに対してベストなサービスを考え取り組むことが大事だと思っております。		◎	○	病院受診時は必要に応じて介護タクシーを手配している。家族の協力を得ながら定期的な帰宅や外食、法要等の外出支援を行っており、利用者や家族からの要望に柔軟に対応している。

項目No.	評価項目	小項目	内容	自己評価	判断した理由・根拠	家族評価	地域評価	外部評価	実施状況の確認及び次のステップに向けて期待したいこと
(3)生活環境づくり									
25	気軽に入れる玄関まわり等の配慮		利用者や家族、近隣の人等にとって親しみやすく、気軽に出入りができるように、玄関や建物周囲の工夫をしている。	○	清潔・季節感など注意しております。	○	○	○	玄関先にはゆるやかなスロープが設置され、玄関引戸を入るとユニットを見渡すことができる。玄関には花を活けたり季節を感じる飾り付けがあり、和やかで入りやすい雰囲気である。
26	居心地の良い共用空間づくり	a	共用の空間(玄関、廊下、居間、台所、食堂、浴室、トイレ等)は、家庭的な雰囲気を有しており、調度や設備、物品や装飾も家庭的で、住まいとしての心地良さがある。(天井や壁に子供向けの飾りつけをしていたり、必要なものを置いていない殺風景な共用空間等、家庭的な雰囲気をそぐような設えになっていないか等。)	○	家庭的な雰囲気を味わえるよう心がけております。清潔感・季節感にもはよりよしております。	○	○	○	リビングはいす席とソファ席があり、明るく広々とした空間になっている。壁側にピアノが置かれており、来訪者や利用者が演奏することがある。改装されたばかりの事業所は清掃が行き届いていて美しく、利用者の塗り絵作品やクリスマスの飾りつけがされている。1階掃き出し窓から広いテラスに出ることができ、庭には花壇と菜園があって利用者の憩いの場にもなっている。
		b	利用者にとって不快な音や光、臭いがないように配慮し、掃除も行き届いている。	○	毎日掃除を実施。臭いの強い場所是要チェックしております。				
		c	心地よさや能動的な言動を引き出すために、五感に働きかける様々な刺激(生活感や季節感を感じるもの)を生活空間の中に取り入れ、居心地よく過ごせるよう工夫している。	○	ホームの花壇で咲いたお花をフロアーに活けたり、折り紙・歌詞本・パズルなど趣味的なものが手の届く所に置いてあります。				
		d	気の合う利用者同士で思い思いに過ごせたり、人の気配を感じながらも独りになれる居場所の工夫をしている。	○	マイペースで過ごされております。				
		e	トイレや浴室の内部が共用空間から直接見えないよう工夫している。	○	共有空間からは、見えないようになっております。				
27	居心地良く過ごせる居室の配慮		本人や家族等と相談しながら、使い慣れたものや好みのもをを活かして、本人が居心地よく過ごせるような工夫をしている。	○	家族様の協力を得て、利用者様と相談し希望があれば持込されております。	○			居室は広々として、利用者の身体状況に適したベッドが設置されており、馴染みの机や藤いす、テレビ等を思い思いに配置し、写真や花を飾って居心地良くしている。
28	一人ひとりの力が活かせる環境づくり	a	建物内部は利用者一人ひとりの「できること」や「わかること」を活かして、安全かつできるだけ自立した生活が送れるように配慮や工夫をしている。	○	自立支援のケアをさせていただいております。			○	車いすで移動する利用者にとっても、安全に移動ができる生活空間になっており、リビングには様々な娯楽用品や新聞を置き、自由に手に取ることができる。居室を間違えないよう門札を大きく表示し、トイレ表示も大きくして分かりやすくなるよう工夫している。
		b	不安や混乱、失敗を招くような環境や物品について検討し、利用者の認識間違いや判断ミスを最小にする工夫をしている。	○	テーブルには、お名前を貼ってご自分の席が分かるようにしております。				
		c	利用者の活動意欲を触発する馴染みの物品が、いつでも手に取れるように生活空間の中にさりげなく置かれている。(ぼうき、裁縫道具、大工道具、園芸用品、趣味の品、新聞・雑誌、ポット、急須・湯飲み・お茶の道具等)	○	新聞・雑誌・折り紙・歌詞本・パズルゲーム・TVのチャンネルなどは手の届く所に置いてあります。爪切り・はさみなどは安全面を考慮しております。				
29	鍵をかけないケアの取り組み	a	代表者及び全ての職員が、居室や日中にユニット(棟)の出入り口、玄関に鍵をかけることの弊害を理解している。(鍵をかけられ出られない状態で暮らしていることの異常性、利用者にもたらす心理的不安や閉塞感・あきらめ・気力の喪失、家族や地域の人にもたらす印象のデメリット等)	△	理解はしておりますが、徘徊や転倒の危険性を最優先に考慮している為、閉塞感があります。利用者様と家族様には説明し理解を得ております。	×	×	△	職員は玄関に鍵をかけることの弊害を理解しており、ユニット間は常時開放されていて自由に往来することができ、日々交流の機会があるが、過去に一人で外出した利用者を捜索した経験があり、交通量の多い道路沿いに立地している環境要件もあるため、安全を優先して日中夜間共に玄関は施錠していることが多い。今回家族アンケートに施錠について意見が寄せられており、様々な方面から検討して利用者の自由な行動を確保するよう工夫した取組みを期待したい。
		b	鍵をかけない自由な暮らしについて家族の理解を図っている。安全を優先するために施錠を望む家族に対しては、自由の大切さと安全確保について話し合っている。	△	家族様と話し合っているが、自由より安全を望まれる家族様が圧倒的に多いです。				
		c	利用者の自由な暮らしを支え、利用者や家族等に心理的圧迫をもたらさないよう、日中は玄関に鍵をかけなくてもすむよう工夫している(外出の察知、外出傾向の把握、近所の理解・協力の促進等)。	△	日中、状況に応じてなるべく開錠を心がけておりますが、時間に限度があります。				

項目No.	評価項目	小項目	内容	自己評価	判断した理由・根拠	家族評価	地域評価	外部評価	実施状況の確認及び次のステップに向けて期待したいこと
(4)健康を維持するための支援									
30	日々の健康状態や病状の把握	a	職員は、利用者一人ひとりの病歴や現病、留意事項等について把握している。	○	カルテ表紙に既往歴が記入されており、常時 目に入るようになっております。				
		b	職員は、利用者一人ひとりの身体状態の変化や異常のサインを早期に発見できるように注意しており、その変化やサインを記録に残している。	○	バイタルサインチェック・状態観察を細かく実施しております。記録・報告して早期発見につながっております。				
		c	気になることがあれば看護職やかかりつけ医等にいつでも気軽に相談できる関係を築き、重度化の防止や適切な入院につなげる等の努力をしている。	○	異常に気付けば、看護師・主治医に相談できる環境が整っております。				
31	かかりつけ医等の受診支援	a	利用者一人ひとりのこれまでの受療状況を把握し、本人・家族が希望する医療機関や医師に受診できるよう支援している。	○	利用者様・家族様の希望に沿った受診ができております。	◎			
		b	本人及び家族等の希望を大切にし、納得が得られたかかりつけ医と事業所の関係を築きながら、適切な医療を受けられるように支援している。	○	利用者様・家族様の希望に沿った受診ができております。				
		c	通院の仕方や受診結果の報告、結果に関する情報の伝達や共有のあり方等について、必要に応じて本人や家族等の合意を得られる話し合いを行っている。	○	他院受診時は必ず、家族様と同行して頂き、情報も施設に持ち帰って提供していただいております。				
32	入退院時の医療機関との連携、協働	a	入院の際、特にストレスや負担を軽減できる内容を含む本人に関する情報提供を行っている。	○	介護サマリにより、細かく情報提供しております。				
		b	安心して治療できるように、また、できるだけ早期に退院できるように、病院関係者との情報交換や相談に努めている。	○	地域連携室などを通じて、入院先の病院関係者との情報交換・相談はできております。				
		c	利用者の入院時、または入院した場合に備えて日頃から病院関係者との関係づくりを行っている。	○	地域連携室などを通じて、病院関係者との情報交換・相談はできております。				
33	看護職との連携、協働	a	介護職は、日常の関わりの中で得た情報や気づきを職場内の看護職や訪問看護師等に伝えて相談している。看護職の配置や訪問看護ステーション等との契約がない場合は、かかりつけ医や協力医療機関等に相談している。	○	日常での気付きは、職場の看護師・主治医に相談してアドバイス・指示をいただいております。				
		b	看護職もしくは訪問看護師、協力医療機関等に、24時間いつでも気軽に相談できる体制がある。	○	24時間、管理者・看護師・医師に連絡できる体制にあります。				
		c	利用者の日頃の健康管理や状態変化に応じた支援が適切にできるよう体制を整えている。また、それにより早期発見・治療につなげている。	○	急変時、主治医に連絡、対応できる体制にあります。				
34	服薬支援	a	職員は、利用者が使用する薬の目的や副作用、用法や用量について理解している。	○	お薬情報を参考に理解しております。				
		b	利用者一人ひとりが医師の指示どおりに服薬できるよう支援し、飲み忘れや誤薬を防ぐ取り組みを行っている。	○	1回ずつ名前と日付けを明確にし、1日ずつセットしております。セットの確認は複数職員で行っております。のみ忘れ・誤薬はありません。				
		c	服薬は本人の心身の安定につながっているのか、また、副作用(周辺症状の誘発、表情や活動の抑制、食欲の低下、便秘や下痢等)がないかの確認を日常的に行っている。	○	副作用についてはお薬情報で各自 習得しております。状態については日常的に観察しております。				
		d	漫然と服薬支援を行うのではなく、本人の状態の経過や変化などを記録し、家族や医師、看護職等に情報提供している。	○	内服変更時は詳細を記録に残しております。往診時、主治医に報告し、薬の調整をして頂いております。				

項目No.	評価項目	小項目	内容	自己評価	判断した理由・根拠	家族評価	地域評価	外部評価	実施状況の確認及び次のステップに向けて期待したいこと
35	重度化や終末期への支援	a	重度化した場合や終末期のあり方について、入居時、または状態変化の段階ごとに本人・家族等と話し合いを行い、その意向を確認しながら方針を共有している。	○	入居時は相談員により話し合い、入居後は管理者が担当している。管理者が主治医・理事者と相談し、方針を職員に伝えております。	/	/	/	入居時に終末期をどこで迎えたいか聞き取りを行っており、母体診療所及び協力病院と24時間医療体制を整備し、利用者や家族の要望に応じて看取りを行う方針である。重度化した場合は改めて家族や主治医と話し合い、方針を決めている。
		b	重度化、終末期のあり方について、本人・家族等だけではなく、職員、かかりつけ医・協力医療機関等関係者で話し合い、方針を共有している。	○	管理者より職員に伝え、方針を共有している。	○	○		
		c	管理者は、終末期の対応について、その時々職員の思いや力量を把握し、現状ではどこまでの支援ができるかの見極めを行っている。	○	支援の機会がない為、職員の力量の把握は出来ていないが、現状では支援可能な範囲は把握・実施できております。	/	/	/	
		d	本人や家族等に事業所の「できること・できないこと」や対応方針について十分な説明を行い、理解を得ている。	○	適時、利用者様・家族様と話し、理解を得る努力をしております。	/	/	/	
		e	重度や終末期の利用者が日々をより良く暮らせるために、家族やかかりつけ医など医療関係者と連携を図りながらチームで支援していく体制を整えている。あるいは、今後の変化に備えて検討や準備を行っている。	○	家族様と話し合い、希望を職員と共有して対応しております。家族様・主治医と医療連携を図っております。	/	/	/	
		f	家族等への心理的支援を行っている。(心情の理解、家族間の事情の考慮、精神面での支え等)	○	面会時など家族様の話に耳を傾け、理解に努めております。	/	/	/	
36	感染症予防と対応	a	職員は、感染症(ノロウイルス、インフルエンザ、白癩、疥癬、肝炎、MRSA等)や具体的な予防策、早期発見、早期対応策等について定期的に学んでいる。	○	研修会・勉強会などで、各自、習得して理解に努めております。	/	/	/	
		b	感染症に対する予防や対応の取り決めがあり、万が一、感染症が発生した場合に速やかに手順にそった対応ができるよう日頃から訓練を行うなどして体制を整えている。	○	研修会・勉強会で習得し理解はしておりますが、日頃から訓練を行うなどの体制は不十分です。	/	/	/	
		c	保健所や行政、医療機関、関連雑誌、インターネット等を通じて感染症に対する予防や対策、地域の感染症発生状況等の最新情報を入手し、取り入れている。	○	感染症発症の情報を多方面より入手し、職員と情報共有しております。	/	/	/	
		d	地域の感染症発生状況の情報収集に努め、感染症の流行に随時対応している。	○	職員への伝達、注意を徹底しております。	/	/	/	
		e	職員は手洗いやうがいなど徹底して行っており、利用者や来訪者等についても清潔が保持できるよう支援している。	○	職員の手洗いは充分実施されているが、うがいは充分ではない。来訪者は消毒により、清潔を保持できております。	/	/	/	

項目 No.	評価項目	小項目	内容	自己評価	判断した理由・根拠	家族評価	地域評価	外部評価	実施状況の確認及び次のステップに向けて期待したいこと
II. 家族との支え合い									
37	本人とともに支え合う 家族との関係づくりと支援	a	職員は、家族を支援される一方の立場におかず、喜怒哀楽をともにし、一緒に本人を支えていく関係を築いている。	○	出来る限り家族様に協力を求め、一緒に利用者様を支援するように努めております。	/	/	/	誕生会や花見、盆踊り等の行事を家族に案内し、参加してもらっている。 2か月に1回便りに利用者の暮らしの様子を掲載しており、家族にも手紙等を添えて報告している。制度変更による必要事項の伝達は、本部事務所から書類送付と電話で伝えている。運営上の事柄や職員の異動等は、家族に周知されていないため、便り等で周知する等工夫することを期待したい。家族面会時には積極的に声をかけて意思疎通に努めており、利用者の様子を報告したり、家族からの相談等を受けたりしている。遠方の家族にはその都度電話で利用者の状況を伝え、家族からの要望等も聞いている。
		b	家族が気軽に訪れ、居心地よく過ごせるような雰囲気づくりや対応を行っている。(来やすい雰囲気、関係再構築の支援、湯茶の自由利用、居室への宿泊のしやすさ等)	○	職員が家族様に積極的に声掛けてコミュニケーションを図り、家庭的な居心地のいい雰囲気づくりに努めております。	/	/	/	
		c	家族がホームでの活動に参加できるように、場面や機会を作っている。(食事づくり、散歩、外出、行事等)	○	外出行事・苑との合同行事・誕生会・運営推進会議など連絡して、参加をして頂くようお願いしております。	○	/	○	
		d	来訪する機会が少ない家族や疎遠になってしまっている家族も含め、家族の来訪時や定期的な報告などにより、利用者の暮らしぶりや日常の様子を具体的に伝えている。(「たより」の発行・送付、メール、行事等の録画、写真の送付等)	○	不定期ではありますが『たより』を発行しております。適時、電話にて日常生活を報告しております。連絡内容は経過記録に残し職員間で共有しております。	○	/	○	
		e	事業所側の一方的な情報提供ではなく、家族が知りたいことや不安に感じていること等の具体的な内容を把握して報告を行っている。	○	家族様から質問・訴えがあった時は、内容に必要な部署に確認して、回答をして解決につなげております。すぐ対応する事に努めております。	/	/	/	
		f	これまでの本人と家族との関係の理解に努め、より良い関係を築いていけるように支援している。(認知症への理解、本人への理解、適切な接し方・対応等についての説明や働きかけ、関係の再構築への支援等)	○	面会時には日常の様子を報告しております。居室でもフロアでも過ごして頂いております。他の利用者様も一緒にお話しされたりも見られます。	/	/	/	
		g	事業所の運営上の事柄や出来事について都度報告し、理解や協力を得ようとしている。(行事、設備改修、機器の導入、職員の異動・退職等)	△	行事報告はしておりますが、設備改修・機器の導入・職員の異動については不十分です。	x	/	△	
		h	家族同士の交流が図られるように、様々な機会を提供している。(家族会、行事、旅行等への働きかけ)	○	外出や行事の時は声掛けて、交流の機会を設けております。家族会はありません。	/	/	/	
		i	利用者一人ひとり起こり得るリスクについて家族等に説明し、抑圧感のない暮らしを大切にしたい対応策を話し合っている。	○	入居時には『入居時リスク説明書』があります。説明し署名捺印頂いております。入居後も各々のリスクについて説明し、理解を頂いております。	/	/	/	
		j	家族が、気がかりなことや、意見、希望を職員に気軽に伝えたり相談したりできるように、来訪時の声かけや定期的な連絡等を積極的に行っている。	○	家族様から質問や訴えがあった時は、内容に必要な部署に確認し、回答・解決につなげております。即、対応に心がけております。	/	/	○	
38	契約に関する説明と納得	a	契約の締結、解約、内容の変更等の際は、具体的な説明を行い、理解、納得を得ている。	○	事務所・管理者を通して具体的な説明をし、理解・納得 頂いております。	/	/	/	
		b	退居については、契約に基づくとともにその決定過程を明確にし、利用者や家族等に具体的な説明を行った上で、納得のいく退居先に移れるように支援している。退居事例がない場合は、その体制がある。	○	事務所・管理者を通して具体的な説明をし、理解・納得 頂いております。	/	/	/	
		c	契約時及び料金改定時には、料金の内訳を文書で示し、料金の設定理由を具体的に説明し、同意を得ている。(食費、光熱水費、その他の実費、敷金設定の場合の償却、返済方法等)	○	事務所・管理者を通して具体的な説明をし、理解・納得 頂いております。変更時は、その都度、連絡しております。	/	/	/	

項目No.	評価項目	小項目	内容	自己評価	判断した理由・根拠	家族評価	地域評価	外部評価	実施状況の確認及び次のステップに向けて期待したいこと	
Ⅲ. 地域との支え合い										
39	地域とのつきあいやネットワークづくり ※文言の説明 地域：事業所が所在する市町の日常生活圏域、自治会エリア	a	地域の人に対して、事業所の設立段階から機会をつくり、事業所の目的や役割などを説明し、理解を図っている。	○	運営推進会議で説明し、理解を得ております。	/	○	/	町内会に加入しており、地域行事に参加している。町内清掃活動や盆踊り大会の準備、地方祭のテント張りを手伝う等、地域に溶け込むよう努めている。近隣中学生の来訪があり、利用者は楽しそうに交流し、いつも心待ちにしている。	
		b	事業所は、孤立することなく、利用者が地域とつながりながら暮らし続けられるよう、地域の人たちに対して日頃から関係を深める働きかけを行っている。(日常的なあいさつ、町内会・自治会への参加、地域の活動や行事への参加等)	○	日常的な挨拶の他、町内の清掃活動・お祭りの準備の参加・運営推進会議に参加していただくよう声掛け等々関係を深める働きかけをしています。	/	○	○		
		c	利用者を見守ったり、支援してくれる地域の人たちが増えている。	△	直接的な関わりはあまり得ておりません。	/	/	/		/
		d	地域の人気が気軽に立ち寄り遊びに来たりしている。	△	何か用があるときだけの訪問です。	/	/	/		/
		e	隣近所の人と気軽に声をかけ合ったり、気軽に立ち寄ってもらうなど、日常的なおつきあいをしている。	△	日常的な挨拶、ゴミ当番の引き継ぎ程度で、日常的なおつきあいはできておりません。	/	/	/		/
		f	近隣の住民やボランティア等が、利用者の生活の拡がりや充実を図ることを支援してくれるよう働きかけを行っている。(日常的な活動の支援、遠出、行事等の支援)	○	中学生のボランティア活動として、花理の手入れ・避難訓練がありました。	/	/	/		/
		g	利用者一人ひとりの暮らしを支えている地域資源を把握し、本人が心身の力を発揮しながら安全で豊かな暮らしを楽しむことができるよう支援している。	×	地域資源の活用はできておりません。利用できる地域資源を見つけたら始めます。	/	/	/		/
		h	地域の人たちや周辺地域の諸施設からも協力を得ることができるよう、日頃から理解を拡げる働きかけや関係を深める取り組みを行っている(公民館、商店・スーパー・コンビニ、飲食店、理美容店、福祉施設、交番、消防、文化・教育施設等)。	○	年に一度の地区の避難訓練に参加したり、地域的美容室の方に訪問美容室でお願いしております。	/	/	/		/
40	運営推進会議を活かした取組み	a	運営推進会議には、毎回利用者や家族、地域の人等の参加がある。	○	ほぼ毎回、参加して下さっております。	×	/	△	現在家族の参加が得られない状況が続いており、利用者や家族が参加できる取組みや工夫を期待したい。目標達成計画では着実な取組みがみられて成果も挙げているが、運営推進会議で報告できていないため、今後は会議で報告して参加者と意見交換等を行って欲しい。町内会長の熱心な参加があり、利用者状況や活動報告、ヒヤリハットと事故報告を行った後意見交換を行い、出された意見等を利用者がより安心して生活ができるよう、さらなるサービス向上に活かしている。	
		b	運営推進会議では、利用者やサービスの実績、評価への取り組み状況(自己評価・外部評価の内容、目標達成計画の内容と取り組み状況等)について報告している。	×	外部評価の目標達成計画の内容と取り組みについては、報告できておりません。	/	/	△		
		c	運営推進会議では、事業所からの一方的な報告に終わらず、会議で出された意見や提案等を日々の取り組みやサービス向上に活かし、その状況や結果等について報告している。	○	会議録は職員間で共有しております。出来るだけ、会議への参加も心がけております。	/	○	○		
		d	テーマに合わせて参加メンバーを増やしたり、メンバーが出席しやすい日程や時間帯について配慮・工夫をしている。	○	出来る限り職員の参加を心がけております。	/	○	/		
		e	運営推進会議の議事録を公表している。	○	玄関にファイルを置き、開示しております。	/	/	/		/

項目No.	評価項目	小項目	内容	自己評価	判断した理由・根拠	家族評価	地域評価	外部評価	実施状況の確認及び次のステップに向けて期待したいこと
IV.より良い支援を行うための運営体制									
41	理念の共有と実践	a	地域密着型サービスの意義を踏まえた事業所理念をつくり、代表者、管理者、職員は、その理念について共通認識を持ち、日々の実践が理念に基づいたものになるよう日常的に取り組んでいる。	○	全職員、施設の理念に基づき日常の業務を行っております。				
		b	利用者、家族、地域の人たちにも、理念をわかりやすく伝えている。	○	施設見学の際に説明しております。	x	x		
42	職員を育てる取り組み ※文言の説明 代表者：基本的には運営している法人の代表者であり、理事長や代表取締役が該当するが、法人の規模によって、理事長や代表取締役をその法人の地域密着型サービス部門の代表者として扱うのは合理的ではないと判断される場合、当該部門の責任者などを代表者として差し支えない。したがって、指定申請書に記載する代表者と異なることはありうる。	a	代表者は、管理者や職員一人ひとりのケアの実際と力量を把握し、計画的に法人内外の研修を受けられるよう取り組んでいる。	○	毎月一回は、研修会・勉強会に参加、自己研鑽しております。				年間計画を立てて研修を行っており、地区の医療機関が実施する研修会にも積極的に参加して職員のスキルアップに努めている。代表者は頻りに事業所を訪問して職員とコミュニケーションを図ることで、職員は気軽に相談できる働きやすい職場環境であると認識している。
		b	管理者は、OJT(職場での実務を通して行う教育・訓練・学習)を計画的に行い、職員が働きながらスキルアップできるよう取り組んでいる。	○	外部研修以外にも、講師を招き、研修会・勉強会を実施しスキルアップに取り組んでおります。				
		c	代表者は、管理者や職員個々の努力や実績、勤務状況を把握し、給与水準、労働時間、やりがいなど、各自が向上心を持って働けるよう職場環境・条件の整備に努めている。	○	職員個々の実績を把握、モチベーションを下げないように改善して下さっております。				
		d	代表者は管理者や職員が同業者と交流する機会を作り、ネットワークづくりや勉強会、相互研修などの活動を通して職員の意識を向上させていく取り組みをしている。(事業者団体や都道府県単位、市町単位の連絡会などへの加入・参加)	○	研修やGH連絡会に参加し、同業者とコミュニケーションが取れるようにしております。				
		e	代表者は、管理者や職員のストレスを軽減するための工夫や環境づくりに取り組んでいる。	○	取り組んでおります。	◎	◎	○	
43	虐待防止の徹底	a	代表者及び全ての職員は、高齢者虐待防止法について学び、虐待や不適切なケアに当たるのは具体的にどのような行為なのかを理解している。	○	研修会・勉強会で習得し、話し合いの場を持ち、職員間で共有しております。				3か月に1回身体拘束委員会を開催し、虐待防止研修、身体拘束防止研修の伝達や日々のケアの点検を行っている。不適切な言動に気づいた時はその都度注意喚起を行い、改善につなげており、対応方法や手順等について理解している。
		b	管理者は、職員とともに日々のケアについて振り返ったり話し合ったりする機会や場をつくっている。	○	申し送り・職員会で話し合っております。				
		c	代表者及び全ての職員は、虐待や不適切なケアが見逃されることがないように注意を払い、これらの行為を発見した場合の対応方法や手順について知っている。	○	身体拘束委員会の時に同時に、虐待防止についても話し合いをしております。				
		d	代表者、管理者は職員の疲労やストレスが利用者へのケアに影響していないか日常的に注意を払い、点検している。	○	職員個々に声掛けして、状態や気持ちの確認に努めております。				
44	身体拘束をしないケアの取り組み	a	代表者及び全ての職員が「指定基準における禁止の対象となる具体的な行為」や「緊急やむを得ない場合」とは何かについて正しく理解している。	○	研修会・勉強会で習得し、後日、申し送りなどで再確認しております。				
		b	どのようなことが身体拘束に当たるのか、利用者や現場の状況に照らし合わせて点検し、話し合う機会をつくっている。	○	申し送り・職員会で話し合っております。				
		c	家族等から拘束や施設への要望があっても、その弊害について説明し、事業所が身体拘束を行わないケアの取り組みや工夫の具体的な内容を示し、話し合いを重ねながら理解を図っている。	○	家族様からの要望はないが、身体拘束をしないケアの説明はしております。				

項目No.	評価項目	小項目	内容	自己評価	判断した理由・根拠	家族評価	地域評価	外部評価	実施状況の確認及び次のステップに向けて期待したいこと
45	権利擁護に関する制度の活用	a	管理者や職員は、日常生活自立支援事業や成年後見制度について学び、それぞれの制度の違いや利点などを理解している。	○	研修会・勉強会で習得し理解はしております。	/	/	/	
		b	利用者や家族の現状を踏まえて、それぞれの制度の違いや利点なども含め、パンフレット等で情報提供したり、相談にのる等の支援を行っている。	○	相談があれば支援を行っていきます。	/	/	/	
		c	支援が必要な利用者が制度を利用できるよう、地域包括支援センターや専門機関(社会福祉協議会、後見センター、司法書士等)との連携体制を築いている。	○	地域包括支援センターなどとの連携をとっております。	/	/	/	
46	急変や事故発生時の備え・事故防止の取り組み	a	怪我、骨折、発作、のど詰まり、意識不明等利用者の急変や事故発生時に備えて対応マニュアルを作成し、周知している。	○	対応マニュアルにより周知しております。	/	/	/	
		b	全ての職員は応急手当や初期対応の訓練を定期的に行い、実践力を身に付けている。	○	不定期ではあるが、初期対応の訓練を行っております。	/	/	/	
		c	事故が発生した場合の事故報告書はもとより、事故の一手手前の事例についてもヒヤリハットにまとめ、職員間で検討するなど再発防止に努めている。	○	ヒヤリハットの記録により共有しております。職員間で共有、再発防止につとめております。	/	/	/	
		d	利用者一人ひとりの状態から考えられるリスクや危険について検討し、事故防止に取り組んでいる。	○	入居時の状態から、どのようなリスクがあるか話し合い、事故防止に努めております。	/	/	/	
47	苦情への迅速な対応と改善の取り組み	a	苦情対応のマニュアルを作成し、職員はそれを理解し、適宜対応方法について検討している。	○	マニュアルを理解して、苦情については話し合い共有しております。	/	/	/	
		b	利用者や家族、地域等から苦情が寄せられた場合には、速やかに手順に沿って対応している。また、必要と思われる場合には、市町にも相談・報告等している。	○	管理者より理事・事務長・事務へ報告、対応しております。	/	/	/	
		c	苦情に対しての対策案を検討して速やかに回答するとともに、サービス改善の経過や結果を伝え、納得を得ながら前向きな話し合いと関係づくりを行っている。	○	苦情に対する解決策をよく検討した上で対応しております。	/	/	/	
48	運営に関する意見の反映	a	利用者が意見や要望、苦情を伝えられる機会をつくっている。(法人・事業所の相談窓口、運営推進会議、個別に訊く機会等)	○	運営推進会議の他、個別に適時、聞き取りをしております。	/	/	○	利用者からは日常会話の中で希望を聞き取るほか、介護計画更新時に意向の確認を行っている。家族からは電話や面会時に意見や要望を聞いている。管理者と職員は良い関係が築けており、日頃から気軽に何でも相談しており、職員は意見や提案を言いやすい職場環境であると感じており、常に話し合う機会を設けて利用者本位のケアに反映している。
		b	家族等が意見や要望、苦情を伝えられる機会をつくっている。(法人・事業所の相談窓口、運営推進会議、家族会、個別に訊く機会等)	○	運営推進会議の他、面会時や電話時にお声掛けし、お訊きしております。	◎	/	○	
		c	契約当初だけではなく、利用者・家族等が苦情や相談ができる公的な窓口の情報提供を適宜行っている。	○	管理者又は事務長を通して相談を受け付けております。	/	/	/	
		d	代表者は、自ら現場に足を運ぶなどして職員の意見や要望・提案等を直接聞く機会をつくっている。	○	個別の面談を設けて下さっています。	/	/	/	
		e	管理者は、職員一人ひとりの意見や提案等を聴く機会を持ち、ともに利用者本位の支援をしていくための運営について検討している。	○	日常的に常時、提案に耳を傾け検討しております。	/	/	○	

項目No.	評価項目	小項目	内容	自己評価	判断した理由・根拠	家族評価	地域評価	外部評価	実施状況の確認及び次のステップに向けて期待したいこと
49	サービス評価の取り組み	a	代表者、管理者、職員は、サービス評価の意義や目的を理解し、年1回以上全員で自己評価に取り組んでいる。	○	年に1回 自己評価を行っております。				目標達成計画に沿って改善に取り組んでおり、運営推進会議でも外部評価結果の報告を行っているが、家族や地域の人々への周知が不十分なため、事業所の取組みについて理解してもらいモニターを依頼することを期待したい。
		b	評価を通して事業所の現状や課題を明らかにするとともに、意識統一や学習の機会として活かしている。	○	職員会で意識統一しております。				
		c	評価(自己・外部・家族・地域)の結果を踏まえて実現可能な目標達成計画を作成し、その達成に向けて事業所全体で取り組んでいる。	○	今までの『人生のあゆみ』と題して、入居前の多方面の情報を本人様・家族様から頂き、職員間で共有しケアに生かしております。				
		d	評価結果と目標達成計画を市町、地域包括支援センター、運営推進会議メンバー、家族等に報告し、今後の取り組みのモニターをしてもらっている。	△	報告は不十分でしたが、目標達成計画には取り組んでおります。	×	×	△	
		e	事業所内や運営推進会議等にて、目標達成計画に掲げた取り組みの成果を確認している。	○	『人生のあゆみ』の情報収集・職員間の共有は日常生活支援に役立ちました。				
50	災害への備え	a	様々な災害の発生を想定した具体的な対応マニュアルを作成し、周知している。(火災、地震、津波、風水害、原子力災害等)	○	災害時の対応マニュアルを作成しております。				様々な災害を想定した避難訓練を実施しており、隣接する店舗にも協力を依頼している。また、年1回地域の避難訓練に参加しており、訓練への参加を通してさらに地域との協力関係を構築して緊急災害時の利用者等の安全確保に万全を期して欲しい。
		b	作成したマニュアルに基づき、利用者が、安全かつ確実に避難できるよう、さまざまな時間帯を想定した訓練を計画して行っている。	○	防災訓練(避難訓練)は行っております。夜間想定、日中想定での訓練を行っております。				
		d	消火設備や避難経路、保管している非常用食料・備品・物品類の点検等を定期的に行っている。	○	定期的に行っております。				
		e	地域住民や消防署、近隣の他事業所等と日頃から連携を図り、合同の訓練や話し合う機会をつくるなど協力・支援体制を確保している。	×	隣にあるローソンが、協力して下さっております。	×	○	△	
		f	災害時を想定した地域のネットワークづくりに参加したり、共同訓練を行うなど、地域の災害対策に取り組んでいる。(県・市町、自治会、消防、警察、医療機関、福祉施設、他事業所等)	△	年に1回の地域の避難訓練には、必ず、参加しております。				
51	地域のケア拠点としての機能	a	事業所は、日々積み上げている認知症ケアの実践力を活かして地域に向けて情報発信したり、啓発活動等に取り組んでいる。(広報活動、介護教室等の開催、認知症サポーター養成研修や地域の研修・集まり等での講師や実践報告等)	×	地域への情報発信はできておりません。				入居についての相談があれば対応しているが、地域アンケートの評価が低いため、今後は事業所の相談支援について地域の理解が得られるよう努めて欲しい。管理者は、地域との関わりを大切に考え、積極的に地域行事に協力しているが、地域ケア拠点としての活動はこれからの取組みであると感じている。今後は職員で話し合いながら、地域に根ざし、地域住民に頼られる事業所になることを期待したい。
		b	地域の高齢者や認知症の人、その家族等への相談支援を行っている。	○	相談員により家族や地域の方の相談支援を行っております。		×	△	
		c	地域の人たちが集う場所として事業所を解放、活用している。(サロン・カフェ・イベント等交流の場、趣味活動の場、地域の集まりの場等)	×	できておりません。				
		d	介護人材やボランティアの養成など地域の人材育成や研修事業等の実習の受け入れに協力している。	○	実習生の受け入れを行っております。				
		e	市町や地域包括支援センター、他の事業所、医療・福祉・教育等各関係機関との連携を密にし、地域活動を協働しながら行っている。(地域イベント、地域啓発、ボランティア活動等)	△	ボランティア活動には参加しておりますが、地域への情報発信はできておりません。			△	